

(様式第 10)

海大番 1065 号
平成 27 年 10 月 8 日

北海道厚生局長

殿

北海道大学総長 山口 佳三 (印)

北海道大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第の規定に基づき、平成 26 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
氏 名	国立大学法人北海道大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人北海道大学 北海道大学病院

3 所在の場所

〒060-8648 札幌市北区北14条西5丁目	電話 (011) 716-1161
----------------------------	-------------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

① 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 ② 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜
--

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	(有) ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 消化器内科 2 循環器内科 3 血液内科 4 腫瘍内科 5 神経内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	④ ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 消化器外科 2 循環器外科 3 呼吸器外科 4 乳腺外科 5 小児外科 6 形成外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 ⑦産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 ⑫放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	④ ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 小児歯科 2 矯正歯科 3 歯科口腔外科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
72 床	床	床	床	874 床	946 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成27年10月1日現在)

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	303人	384人	574.1人	看護補助者	127人	診療エックス線技師	0人
歯科医師	140人	134人	193.6人	理学療法士	15人	臨床検査技師	75人
薬剤師	67人	0人	67人	作業療法士	10人	衛生検査技師	0人
保健師	0人	0人	0人	視能訓練士	11人	その他	0人
助産師	26人	0人	26人	義肢装具士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看護師	854人	29人	876.4人	臨床工学士	18人	医療社会事業従事者	23人
准看護師	0人	0人	0人	栄養士	0人	その他の技術員	9人
歯科衛生士	13人	0人	13人	歯科技工士	2人	事務職員	294人
管理栄養士	7人	0人	7人	診療放射線技師	53人	その他の職員	155人

- (注) 1 申請前半年以内のある月の初めの日における員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成27年6月1日現在)

専門医名	人数	専門医名	人数
総合内科専門医	28人	眼科専門医	16人
外科専門医	60人	耳鼻咽喉科専門医	15人
精神科専門医	14人	放射線科専門医	34人
小児科専門医	32人	脳神経外科専門医	25人
皮膚科専門医	18人	整形外科専門医	33人
泌尿器科専門医	14人	麻酔科専門医	28人
産婦人科専門医	24人	救急科専門医	14人
		合計	355人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	788人	21人	809人
1日当たり平均外来患者数	2,267人	742人	3,009人
1日当たり平均調剤数			1145 剤
必要医師数			212人
必要歯科医師数			41人
必要薬剤師数			43人
必要(准)看護師数			506人

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日

で除した数を記入すること。

- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

9 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備		概 要	
集中治療室	236m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	病床数	10床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 80m ² [移動式の場合] 台数 台			病床数	6床	
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 13m ² [共用室の場合] 共用する室名					
化学検査室	93m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 生化学自動分析装置			
細菌検査室	130m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 孵卵器, オートクレーブ			
病理検査室	596m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 切り出し台			
病理解剖室	180m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備) 剖検台			
研究室	1,725m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	37m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	1室	収容定員	50人
図書室	160m ²	鉄骨鉄筋コンクリート	室数	4室	蔵書数	1,400冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

10 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成26年4月1日～平成27年3月31日	
紹介率	82.3 %	逆紹介率	48.7 %
算出根拠	A: 紹介患者の数	16,086 人	
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数	9,955 人	
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数	716 人	
	D: 初診の患者の数	20,423 人	

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	231	・膿疱性乾癬	13
・多発性硬化症	108	・広範脊柱管狭窄症	2
・重症筋無力症	77	・原発性胆汁性肝硬変	89
・全身性エリテマトーデス	465	・重症急性膵炎	4
・スモン	2	・特発性大腿骨頭壊死症	140
・再生不良性貧血	43	・混合性結合組織病	41
・サルコイドーシス	346	・原発性免疫不全症候群	39
・筋萎縮性側索硬化症	14	・特発性間質性肺炎	22
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	251	・網膜色素変性症	46
・特発性血小板減少性紫斑病	101	・プリオン病	1
・結節性動脈周囲炎	72	・肺動脈性肺高血圧症	28
・潰瘍性大腸炎	170	・神経線維腫症	42
・大動脈炎症候群	55	・亜急性硬化性全脳炎	0
・ビュルガー病	20	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	0
・天疱瘡	50	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	51
・脊髄小脳変性症	154	・ライソゾーム病	5
・クローン病	91	・副腎白質ジストロフィー	2
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	15	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	1
・悪性関節リウマチ	9	・脊髄性筋萎縮症	7
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	269	・球脊髄性筋萎縮症	10
・アミロイドーシス	14	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	18
・後縦靭帯骨化症	100	・肥大型心筋症	60
・ハンチントン病	2	・拘束型心筋症	0
・モヤモヤ病(ウリス動脈輪閉塞症)	142	・ミトコンドリア病	14
・ウェゲナー肉芽腫症	22	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	13
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	75	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	0
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	35	・黄色靭帯骨化症	3
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	11	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング 病、先端巨大症、下垂体機能低下症)	410

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・ハイリスク妊娠管理加算
・歯科外来診療環境体制加算	・ハイリスク分娩管理加算
・歯科診療特別対応連携加算	・退院調整加算
・特定機能病院入院基本料(一般病棟 7対1)	・救急搬送患者地域連携紹介加算
・特定機能病院入院基本料(精神病棟 13対1)	・救急搬送患者地域連携受入加算
・臨床研修病院入院診療加算(基幹型)	・呼吸ケアチーム加算
・臨床研修病院入院診療加算(協力型)	・病棟薬剤業務実施加算
・救急医療管理加算	・データ提出加算
・超急性期脳卒中加算	・特定集中治療室管理料4
・妊産婦緊急搬送入院加算	・総合周産期特定集中治療室管理料
・診療録管理体制加算2	・新生児治療回復室入院医療管理料
・急性期看護補助体制加算(25対1)	・小児入院医療管理料2
・看護職員夜間配置加算	・
・看護補助加算	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・緩和ケア診療加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・摂食障害入院医療管理加算	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ウイルス疾患指導料	・検体検査管理加算(IV)
・植込型除細動器移行期加算	・遺伝カウンセリング加算
・高度難聴指導管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・喘息治療管理料	・植込型心電図検査
・糖尿病合併症管理料	・胎児心エコー法
・がん性疼痛緩和指導管理料	・時間内歩行試験
・がん患者指導管理料1	・ヘッドアップティルト試験
・がん患者指導管理料2	・人工臓腑
・がん患者指導管理料3	・皮下連続式グルコース測定
・外来緩和ケア管理料	・長期継続頭蓋内脳波検査
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・脳磁図
・移植後患者指導管理料(造血幹細胞移植後)	・神経学的検査
・糖尿病透析予防指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・外来放射線照射診療料	・小児食物アレルギー負荷検査
・ニコチン依存症管理料	・内服・点滴誘発試験
・がん治療連携計画策定料	・センチネルリンパ節生検(併用)
・がん治療連携管理料	・CT透視下気管支鏡検査加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・画像診断管理加算1
・薬剤管理指導料	・歯科画像診断管理加算1
・医療機器安全管理料1	・歯科画像診断管理加算2
・医療機器安全管理料2	・ポジトロン断層撮影
・医療機器安全管理料(歯科)	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・歯科治療総合医療管理料	・CT撮影及びMRI撮影
・持続血糖測定器加算	・冠動脈CT撮影加算
・造血器腫瘍遺伝子検査	・大腸CT撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・心臓MRI撮影加算

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・抗悪性腫瘍剤処方管理加算	・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)
・外来化学療法加算1	・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術
・無菌製剤処理料	・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)
・運動器リハビリテーション料(I)	・網膜再建術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術
・がん患者リハビリテーション料	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・歯科口腔リハビリテーション料2	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)
・認知療法・認知行動療法1	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科)
・精神科作業療法	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・精神科ショート・ケア「小規模なもの」	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・精神科デイ・ケア「小規模なもの」	・経皮的冠動脈形成術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・経皮的冠動脈ステント留置術
・医療保護入院等診療料	・経皮的冠動脈弁置換術
・エタノールの局所注入(甲状腺)	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺)	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・透析液水質確保加算1	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・透析液水質確保加算2	・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極抜去術(レーザーシースを用いるもの)
・磁気による膀胱等刺激法	・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術
・一酸化窒素吸入療法	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・CAD/CAM冠	・補助人工心臓
・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算	・植込型補助人工心臓(拍動流型)
・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・植込型補助人工心臓(非拍動流型)
・骨移植術(軟骨移植術を含む。)(自家培養軟骨移植術に限る。)	・同種心移植術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・経皮的冠動脈遮断術

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・ダメージコントロール手術	・胃瘻造設時嚥下機能評価加算
・腹腔鏡下肝切除術	・歯周組織再生誘導手術
・生体部分肝移植術	・広範囲顎骨支持型装置埋入手術
・同種死体肝移植術	・放射線治療専任加算
・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術	・外来放射線治療加算
・同種死体腓移植術、同種死体腓腎移植術	・高エネルギー放射線治療
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・腹腔鏡下小切開副腎摘出術	・画像誘導放射線治療(IGRT)
・腹腔鏡下小切開腎部分切除術	・体外照射呼吸性移動対策加算
・腹腔鏡下小切開腎摘出術	・直線加速器による放射線治療(定位放射線治療)
・腹腔鏡下小切開腎(尿管)悪性腫瘍手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・同種死体腎移植術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・生体腎移植術	・病理診断管理加算2
・膀胱水圧拡張術	・口腔病理診断管理加算2
・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・人工尿道括約筋植込・置換術	・歯科矯正診断料
・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術	・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)
・腹腔鏡下小切開前立腺悪性腫瘍手術	・
・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る。)	・
・内視鏡的胎盤吻合血管レーザー焼灼術	・
・胎児胸腔・羊水腔シャント術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・
・医科点数表第2章第10部手術の通則の16に掲げる手術	・
・輸血管理料 I	・
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・
・内視鏡手術用支援機器加算	・

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	Kanda A, Noda K, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Laboratory of Ocular Cell Biology and Visual Science, Hokkaido University Graduate School of Medicine	ATP6AP2/(Pro)renin Receptor Contributes to Glucose Metabolism via Stabilizing the Pyruvate Dehydrogenase E1 α Subunit.	J Biol Chem. 2015 Apr 10;290(15):9690-700. doi: 10.1074/jbc.M114.626713. Epub 2015 Feb 26.
2	Hirooka K, Saito W, Namba K, Takemoto Y, Mizuuchi K, Uno T, Tagawa Y, Hashimoto Y, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Relationship between choroidal blood flow velocity and choroidal thickness during systemic corticosteroid therapy for Vogt-Koyanagi-Harada disease.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2015 Apr;253(4):609-17. doi: 10.1007/s00417-014-2927-5. Epub 2015 Jan 27.
3	Ishizuka ET, Kanda A, Kase S, Noda K, Ishida S.	Laboratory of Ocular Cell Biology and Visual Science, Department of Ophthalmology	Involvement of the receptor-associated prorenin system in the pathogenesis of human conjunctival lymphoma.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Dec 11;56(1):74-80. doi: 10.1167/iovs.14-15743.
4	Hashimoto Y, Saito W, Noda K, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Acquired focal choroidal excavation associated with multiple evanescent white dot syndrome: observations at onset and a pathogenic hypothesis.	BMC Ophthalmol. 2014 Nov 20;14:135. doi: 10.1186/1471-2415-14-135.
5	Hashimoto Y, Saito W, Saito M, Hirooka K, Mori S, Noda K, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Decreased choroidal blood flow velocity in the pathogenesis of multiple evanescent white dot syndrome.	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2014 Oct 24. [Epub ahead of print]
6	Lennikov A, Hiraoka M, Abe A, Ohno S, Fujikawa T, Itai A, Ohguro H.	Department of Ophthalmology, School of Medicine, Sapporo Medical University	$I\kappa B$ kinase- β inhibitor IMD-0354 beneficially suppresses retinal vascular permeability in streptozotocin-induced diabetic mice.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Sep 9;55(10):6365-73. doi: 10.1167/iovs.14-14671.
7	Dong Z, Iwata D, Kitaichi N, Takeuchi M, Sato M, Endo N, Iwabuchi K, Ando R, Fukuhara J, Kinoshita S, Lennikov A, Kitamura M, Mizuuchi K, Kanda A, Noda K, Namba K, Yamagishi S, Ohno S, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan; Department of Ophthalmology, Health Sciences University of Hokkaido,	Amelioration of experimental autoimmune uveoretinitis by inhibition of glyceraldehyde-derived advanced glycation end-product formation.	J Leukoc Biol. 2014 Dec;96(6):1077-85. doi: 10.1189/jlb.3A0513-288RRR. Epub 2014 Sep 8.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
8	Kinoshita S, Noda K, Tagawa Y, Inafuku S, Dong Y, Fukuhara J, Dong Z, Ando R, Kanda A, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan; Department of Ophthalmology, Health Sciences University of Hokkaido,	Genistein attenuates choroidal neovascularization.	J Nutr Biochem. 2014 Nov;25(11):1177-82. doi: 10.1016/j.jnutbio.2014.06.004. Epub 2014 Jul 17.
9	Ando R, Noda K, Tomaru U, Kamoshita M, Ozawa Y, Notomi S, Hisatomi T, Noda M, Kanda A, Ishibashi T, Kasahara M, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan; Department of Ophthalmology, Health Sciences University of Hokkaido,	Decreased proteasomal activity causes photoreceptor degeneration in mice.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 Jul 3;55(7):4682-90. doi: 10.1167/iovs.13-13272.
10	Kase S, Yoshikawa H, Nakajima Y, Noda M, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Adenosquamous carcinoma of the conjunctiva: A case report.	Oncol Lett. 2014 Jun;7(6):1941-1943. Epub 2014 Mar 28.
11	Hirooka K, Saito W, Hashimoto Y, Saito M, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Increased macular choroidal blood flow velocity and decreased choroidal thickness with regression of punctate inner choroidopathy.	BMC Ophthalmol. 2014 May 28;14:73. doi: 10.1186/1471-2415-14-73.
12	Kase S, Noda M, Yoshikawa H, Yamamoto T, Ishijima K, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Oxidative stress in the levator aponeurosis in Asian involutional blepharoptosis.	Ophthalmol Plast Reconstr Surg. 2014 Jul-Aug;30(4):290-4. doi: 10.1097/IOP.0000000000000090.
13	Kinoshita S, Kase S, Ando R, Dong Z, Fukuhara J, Dong Y, Inafuku S, Noda K, Noda M, Kanda A, Ishida S.	Laboratory of Ocular Cell Biology and Visual Science; Department of Ophthalmology	Expression of vascular endothelial growth factor in human ocular adnexal lymphoma.	Invest Ophthalmol Vis Sci. 2014 May 13;55(6):3461-7. doi: 10.1167/iovs.13-13510.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
14	Takahashi A, Saito W, Hashimoto Y, Saito M, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Impaired circulation in the thickened choroid of a patient with serpiginous choroiditis.	Ocul Immunol Inflamm. 2014 Oct;22(5):409-13. doi: 10.3109/09273948.2014.902075. Epub 2014 Apr 11. No abstract available.
15	Hashimoto Y, Saito W, Saito M, Hirooka K, Yoshizawa C, Noda K, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Retinal outer layer thickness increases with regression of multiple evanescent white dot syndrome and visual improvement positively correlates with photoreceptor outer segment length.	Acta Ophthalmol. 2014 Nov;92(7):e591-2. doi: 10.1111/aos.12413. Epub 2014 Apr 3. No abstract available.
16	Lennikov A, Alekberova Z, Goloeva R, Kitaichi N, Denisov L, Namba K, Takeno M, Ishigatsubo Y, Mizuki N, Nasonov E, Ishida S, Ohno S.	Department of Ophthalmology, School of Medicine, Sapporo Medical University	Single center study on ethnic and clinical features of Behcet's disease in Moscow, Russia.	Clin Rheumatol. 2015 Feb;34(2):321-7. doi: 10.1007/s10067-013-2442-9. Epub 2013 Dec 10.
17	Ando R, Noda K, Namba S, Saito W, Kanda A, Ishida S.	Department of Ophthalmology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan; Department of Ophthalmology, Health Sciences University of Hokkaido,	Aqueous humour levels of placental growth factor in diabetic retinopathy.	Acta Ophthalmol. 2014 May;92(3):e245-6. doi: 10.1111/aos.12251. Epub 2013 Aug 3. No abstract available.
18	Ikuno, K., Kajii, S.T., Oka, A., Inoko, H., Ishikawa, H., and Iida, J.	矯正歯科	Microsatellite genome-wide association study for mandibular prognathism.	Am.J.Orthod.Dentofac.Orthop., 145(6):757-762, June 2014
19	Ohmura-Kakutani, H., Akiyama, K., Maishi, N., Ohga, N., Hida, Y., Kawamoto, T., Iida, J., Shindoh, M., Tsuchiya, K., Shinohara, N., and Hida, K.	矯正歯科	Identification of tumor endothelial cells with high aldehyde dehydrogenase activity and a highly angiogenic phenotype.	PLoS ONE, 9(12):e113910-113926, December 1, 2014
20	Keiichi Nakano	Division of Laboratory and Transfusion Medicine, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan.	Identification of IgG- κ type macroprolactin found in the serum of an 8-year-old girl	Clinica Chimica Acta,433,206-208, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
21	Sato J, Kitagawa Y, Yamazaki Y, Hata H, Asaka T, Miyakoshi M, Okamoto S, Shiga T, Shindoh M, Kuge Y, Tamaki N	Oral Diagnosis and Medicine 口腔診断内科	Advantage of FMISO-PET over FDG-PET for predicting histological response to preoperative chemotherapy in patients with oral squamous cell carcinoma.	Eur J Nucl Med Mol Imaging
22	Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Cancer stem-like cells derived from chemoresistant tumors have a unique capacity to prime tumorigenic myeloid cells	Cancer Res,74:2698-709, 2014 May
23	Kinoshita I Kinoshita I Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	CD133 expression: a potential prognostic marker for non-small cell lung cancers	Int J Clin Oncol. 19:254-9, 2014 Apr
24	Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Low expression levels of microRNA-124-5p correlated with poor prognosis in colorectal cancer via targeting of SMC4	Cancer Medicine. 3:1544-52, 2014 Dec
25	Kinoshita I Kinoshita I Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Phase II trial of carboplatin and pemetrexed as first-line chemotherapy for non-squamous non-small cell lung cancer, and correlation between the efficacy/toxicity and genetic polymorphisms associated with pemetrexed metabolism: Hokkaido Lung Cancer Clinical Study Group Trial (HOT) 0902	Cancer Chemother Pharmacol. 74:1149-57, 2014 Dec
26	Taguchi J, Shimizu Y, Kinoshita I, Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Feasibility and efficacy of induction docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy combined with concurrent weekly cisplatin chemoradiotherapy for locally advanced head and neck squamous cell carcinoma	Int J Clin Oncol, in press. 2014 Jul
27	Honma R, Kinoshita I, Shimizu Y, Takeuchi S, Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Expression of fucosyltransferase 8 is associated with an unfavorable clinical outcome in non-small cell lung cancers	Oncology (in press)
28	Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	The coordinated actions of TIM-3 on cancer and myeloid cells in the regulation of tumorigenicity and clinical prognosis in clear cell renal cell carcinomas	Cancer Immunol Res (in press)
29	早坂 格	周産母子センター	Exchange transfusion in patients with Down syndrome and severe transient leukemia	Pediatr Int. doi: 10.1111/ped.12586.
30	Kamiya K, Sakakibara M, Asakawa N, Yamada S, Yoshitani T, Iwano H, Komatsu H, Naya M, Chiba S, Yamada S, Manabe O, Kikuchi Y, Oyama-Manabe N, Oba K, Tsutsui H.	Department of Cardiovascular Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine	Cardiac magnetic resonance performs better in the detection of functionally significant coronary artery stenosis compared to single-photon emission computed tomography and dobutamine stress echocardiography.	Circ J. 2014;78(10):2468-76.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
31	今野 哲	北海道大学病院 内科 I	The effects of a Gly16Arg ADRB2 polymorphism on responses to salmeterol or montelukast in Japanese patients with mild persistent asthma	Pharmacogenet Genomics
32	池澤 靖元	北海道大学病院 内科 I	Endobronchial ultrasonography with a guide sheath for pure or mixed ground-glass opacity lesions	Respiration
33	鈴木 雅	北海道大学病院 内科 I	Clinical features and determinants of COPD exacerbation in the Hokkaido COPD cohort study	Eur Respir J
34	鈴木 雅	北海道大学病院 内科 I	Danish Lung Cancer Screening Trial Investigators.:” Lower leptin/adiponectin ratio and risk of rapid lung function decline in chronic obstructive pulmonary disease	Ann Am Thorac Soc
35	安部 崇重	泌尿器科	Outcome of metastasectomy For urothelial carcinoma: a multi-institutional retrospective study in Japan.	The Journal of urology 2014; 191(4): 932-6
36	安部 崇重	泌尿器科	Comparison of 90-day complication between ileal conduit and neobladder reconstruction after radical cystectomy: A retrospective multi-institutional study in Japan	International Journal of urology: official journal of the Japanese Urological Association 2014;21(6):554-9
37	守屋 仁彦	泌尿器科	Impact of laparoscopy for diagnosis and treatment in patients with disorders of sex development.	Journal of pediatric urology 2014
38	安部 崇重	泌尿器科	Outcome of regional lymphadenectomy in accordance with primary tumor location on laparoscopic nephroureterectomy for urothelial carcinoma of the upper urinary tract: a prospective study	Journal of endourology/ Endourological Society 2015;29(3):304-9
39	橘田 岳也	泌尿器科	Brain-bladder control network: The unsolved 21st century urological mystery.	International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association 2015.
40	橘田 岳也	泌尿器科	Postoperative detrusor contractility temporarily decreases in patients undergoing pelvic organ prolapse surgery.	International journal of urology : official journal of the Japanese Urological Association 2015; 22(2): 201-5.
41	守屋 仁彦	泌尿器科	Early discontinuation of antibiotic prophylaxis in patients with persistent primary vesicoureteral reflux initially detected during infancy: outcome analysis and risk factors for febrile urinary tract infection	The Journal of urology 2015;193(2):637- 42
42	篠原 信雄	泌尿器科	Prognosis of Japanese patients with previously untreated metastatic renal cell carcinoma in the era of molecular-targeted therapy	Cancer science 2015
43	Todo Y, Watari H, Kang S, Sakuragi N.	Division of Gynecologic Oncology, National Hospital Organization, Hokkaido Cancer Center.	Tailoring lymphadenectomy according to the risk of lymph node metastasis in endometrial cancer.	J Obstet Gynaecol Res. 2014 Feb;40(2):317-21.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
44	Watari H, Todo Y, Kang S, Odagiri T, Sakuragi N.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine,	Proposal of a concept and design of a randomized phase III trial investigating the survival effect of para-aortic lymphadenectomy in endometrial cancer.	Gynaecol Res. 2014 Feb;40(2):312-6.
45	Dong P, Kaneuchi M, Xiong Y, Cao L, Cai M, Liu X, Guo S, Ju J, Jia N, Konno Y, Watari H, Hosaka M, Sudo S, Sakuragi N.	1Department of Women's Health Educational System, Hokkaido University School of Medicine, Hokkaido University	Identification of KLF17 as a novel epithelial to mesenchymal transition inducer via direct activation of TWIST1 in endometrioid endometrial cancer.	Carcinogenesis. 2014 Apr;35(4):760-8.
46	Hanley SJ, Yoshioka E, Ito Y, Konno R, Sasaki Y, Kishi R, Sakuragi N.	Department of Reproductive Endocrinology and Oncology, Hokkaido University,	An exploratory study of Japanese fathers' knowledge of and attitudes towards HPV and HPV vaccination: does marital status matter?	Asian Pac J Cancer Prev. 2014;15(4):1837-43.
47	Mitamura T, Watari H, Wang L, Kanno H, Kitagawa M, Hassan MK, Kimura T, Tanino M, Nishihara H, Tanaka S, Sakuragi N.	Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine,	microRNA 31 functions as an endometrial cancer oncogene by suppressing Hippo tumor suppressor pathway.	Mol Cancer. 2014 Apr 29;13(1):97.
48	Konno Y1, Dong P2, Xiong Y3, Suzuki F4, Lu J5, Cai M5, Watari H6, Mitamura T6, Hosaka M6, Hanley SJ7, Kudo M6, Sakuragi N8.	1 Department of Gynecology, Hokkaido University, Sapporo, Japan; These authors contributed equally to this work. 2 Department of Women's Health Educational System, Hokkaido University, Sapporo, Japan; These authors contributed equally to this work. 3 Department of Gynecology, State Key Laboratory of Oncology in South China, Sun Yat-sen University Cancer Center, Guangzhou, P. R. China; These authors contributed equally to this work. 4 Department of Obstetrics and Gynecology, Tohoku University, Sendai, Japan; These authors contributed equally to this work. 5 Department of Pathology, State Key Laboratory of Oncology in South China, Sun Yat-sen University Cancer Center, Guangzhou, P. R. China. 6 Department of Gynecology, Hokkaido University, Sapporo, Japan. 7 Department of Women's Health Educational System, Hokkaido University, Sapporo, Japan. 8 Department of Gynecology, Hokkaido University, Sapporo, Japan; Department of Women's Health Educational System, Hokkaido University, Sapporo, Japan.	MicroRNA-101 targets EZH2, MCL-1 and FOS to suppress proliferation, invasion and stem cell-like phenotype of aggressive endometrial cancer cells.	Oncotarget. 2014 Aug 15;5(15):6049-62.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
49	Mitamura T, Watari H, Todo Y, Kato T, Konno Y, Hosaka M, Sakuragi N.	1 Department of Obstetrics and Gynecology, Hokkaido University Graduate School of Medicine. 2 Department of Obstetrics and	Lymphadenectomy can be omitted for low-risk endometrial cancer based on preoperative assessments.	J Gynecol Oncol. 2014 Oct;25(4):301-5.
50	Dong P, Konno Y, Watari H, Hosaka M, Noguchi M, Sakuragi N.	1Department of Women's Health Educational System, Hokkaido University School of Medicine, Hokkaido University	The impact of microRNA-mediated PI3K/AKT signaling on epithelial-mesenchymal transition and cancer stemness in endometrial cancer.	J Transl Med. 2014 Aug 21;12:231.
51	Takashi Kanehira	Hokkaido University	A simple test for salivary gland function measuring resting and stimulated submandibular and sublingual secretions.	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol, 117:197-203,2014
52	Mika Omatsu	National Institute of Radiological Sciences	Magnetic displacement force and torque on dental keepers in the static magnetic field of an MR scanner.	Journal of magnetic resonance imaging 40:1481-1486(2014)
53	若狭 哲	循環器・呼吸器外科	Surgical Strategy for Ischemic Mitral Regurgitation Adopting Subvalvular and Ventricular Procedures.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Feb 16. [Epub ahead of print]
54	関 達也	循環器・呼吸器外科	Characteristics of Inoperable Patients with Severe Aortic Valve Stenosis -In the Era of Transcatheter Aortic Valve Replacement.	Ann Thorac Cardiovasc Surg. 2014 Jul 30. [Epub ahead of print]
55	若狭 哲	循環器・呼吸器外科	Benefits of submitral procedures for ischemic mitral regurgitation.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 62(9):511-5, 2014
56	新宮 康栄	循環器・呼吸器外科	Slope in preload recruitable stroke work relationship predicts survival after left ventriculoplasty and mitral repair in patients with idiopathic cardiomyopathy.	J Cardiol. 65(2):157-63, 2015
57	若狭 哲	循環器・呼吸器外科	The extent of papillary muscle approximation affects mortality and durability of mitral valve repair for ischemic mitral regurgitation.	J Cardiothorac Surg. 3;9:98, 2014
58	若狭 哲	循環器・呼吸器外科	Internal cuff reimplantation technique for aortic branch reconstruction.	Ann Thorac Surg. 97(5):1822-3, 2014
59	若狭 哲	循環器・呼吸器外科	Histological assessment of transmuralty after repeated radiofrequency ablation of the left atrial wall.	Gen Thorac Cardiovasc Surg. 62(7):428-33, 2014
60	大高 和人	循環器・呼吸器外科	Video-assisted thoracoscopic surgery using mobile computed tomography: new method for locating of small lung nodules.	J Cardiothorac Surg. 20;9:110, 2014
61	K Kobayashi, K Okada, N Inoue	Hokkaido University Hospital, Clinic of Geriatric Patients, Sapporo, Japan	Tongue retravtor developed for occulusal adjuastment under general anaesthesia	Journal of Disability and Oral Health, 2014, 15/1, 18-22

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
62	Sudo H1, Ito M, Abe Y2, Abumi K, Takahata M, Nagahama K, Hiratsuka S, Kuroki K, Iwasaki N	1Department of Orthopaedic Surgery, Hokkaido University Hospital, Sapporo, Japan; and 2Eniwa Hospital, Eniwa, Japan	Surgical treatment of Lenke 1 thoracic adolescent idiopathic scoliosis with maintenance of kyphosis using the simultaneous double-rod rotation technique	Spine (Phila Pa 1976).39(14):1163-9,2014
63	Nagahama K, Sudo H, Abumi K, Ito M, Takahata M, Hiratsuka S, Kuroki K, Iwasaki N	Department of Orthopaedic Surgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan	Anomalous vertebral and posterior communicating arteries as a risk factor in cervical instrumentation surgery	Bone Joint J. 96-B(4):535-40,2014
64	Terashima T, Onodera T, Sawaguchi N, Kasahara Y, Majima T.	Department of Orthopaedic Surgery, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan	External rotation of the femoral component decreases patellofemoral contact stress in total knee arthroplasty	Knee Surg Sports Traumatol Arthrosc.2014[Epub ahead of print]
65	山崎康博、山田雅文	北大小児科	Two Novel Gain-of-Function Mutations of STAT1 Responsible for Chronic Mucocutaneous Candidiasis Disease: Impaired Production of IL-17A and IL-22, and the Presence of anti-IL-17F Autoantibody.	Journal of Immunology
66	千田奈津子、山田雅文	北大小児科、小児歯科	Disease specificity of anti-tryptophan hydroxylase-1 and anti-AIE-75 autoantibodies in APECED and	Clinical Immunology
67	秋元琢真、山田雅文	北大小児科	Hereditary interstitial lung diseases manifesting in early childhood in Japan.	Pediatric Research
68	Shiraishi H	病院小児科	Magnetoencephalography localizing spike sources of atypical benign partial epilepsy.	Brain Dev
69	川俣太	消化器外科 I	C-ERC/mesothelin provokes lymphatic invasion of colorectal adenocarcinoma.	J Gastroenterol. 2014 Jan;49(1):81-92.
70	神山俊哉	消化器外科 I	Long-term outcome of laparoscopic hepatectomy in patients with hepatocellular carcinoma.	Hepatogastroenterology. 2014 Mar-Apr;61(130):405-9.
71	折茂達也	消化器外科 I	Usefulness of artificial vascular graft for venous reconstruction in liver surgery.	World J Surg Oncol. 2014 Apr 23;12:113.
72	本多昌平	消化器外科 I	High drain amylase and lipase values predict post-operative pancreatitis for choledochal cyst.	Afr J Paediatr Surg. 2014 Apr-Jun;11(2):124-7.
73	柴崎晋	消化器外科 I	Percutaneous transhepatic gallbladder drainage followed by elective laparoscopic cholecystectomy in patients with moderate acute cholecystitis under antithrombotic therapy.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 May;21(5):335-42.
74	川村秀樹	消化器外科 I	Laparoscopic gastrectomy after coronary artery bypass grafting using the right gastroepiploic artery: a report of two cases.	Asian J Endosc Surg. 2014 Aug;7(3):251-5.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
75	柿坂達彦	消化器外科 I	Hand-assisted laparoscopic splenectomy for sclerosing angiomatoid nodular transformation of the spleen complicated by chronic disseminated intravascular coagulation: a case report.	Asian J Endosc Surg. 2014 Aug;7(3):275-8.
76	大浦哲	消化器外科 I	A technique for orthotopic liver transplantation in cynomolgus monkeys.	Transplantation. 2014 Sep 27;98(6):e58-60.
77	水上達三	消化器外科 I	Immunohistochemical analysis of cancer stem cell markers in pancreatic adenocarcinoma patients after neoadjuvant chemoradiotherapy.	BMC Cancer. 2014 Sep 21;14:687.
78	川村秀樹	消化器外科 I	Assessment of postoperative symptoms after laparoscopy-assisted distal gastrectomy for stage I gastric cancer.	Int Surg. 2014 Sep-Oct;99(5):645-9.
79	川俣太	消化器外科 I	Comparison of single-incision plus one additional port laparoscopy-assisted anterior resection with conventional laparoscopy-assisted anterior resection for rectal cancer.	World J Surg. 2014 Oct;38(10):2716-23.
80	島田慎吾	消化器外科 I	Hydrogen sulfide augments survival signals in warm ischemia and reperfusion of the mouse liver.	Surg Today. 2014 Nov 2. [Epub ahead of print]
81	神山俊哉	消化器外科 I	Multiplication of alpha-fetoprotein and protein induced by vitamin K absence-II is a powerful predictor of prognosis and recurrence in hepatocellular carcinoma patients after a hepatectomy.	Hepatol Res. 2014 Nov 10.
82	柴崎晋	消化器外科 I	Use of transabdominal ultrasonography to preoperatively determine T-stage of proven colon cancers.	Abdom Imaging. 2014 Nov 16. [Epub ahead of print]
83	川村秀樹	消化器外科 I	The differences in microorganism growth on various dressings used to cover injection sites:inspection of the risk of catheter-related bloodstream infections caused by Gram-negative bacilli.	Surg Today. 2014 Dec;44(12):2339-44.
84	旭火華	消化器外科 I	Chondroma of the diaphragm mimicking a giant liver tumor with calcification: report of a case.	Surg Today. 2014 Dec;44(12):2361-5.
85	山口秀	脳神経外科	Combined use of 18 F-FDG PET and corticosteroid for diagnosis of deep-seated primary central nervous system lymphoma without histopathological confirmation.	Acta Neurochir (Wien) 2015 Feb;157(2):187-94.
86	Fujiwara K, Akao T, Kawakami S, Fukushima J, Kurkin S, Fukushima K.	北海道大学、東北大学	Neural correlates of time-to-collision estimation from visual motion in monkeys	Equilibrium Res 73: 144-153, 2014
87	Hatakeyama H, Mizumachi T, Sakashita T, Kano S, Homma A, Fukuda S.	北海道大学	Epithelial-mesenchymal transition in human papillomavirus-positive and -negative oropharyngeal squamous cell carcinoma.	Oncol Rep 32: 2673-2679, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
88	Homma A, Hayashi R, Matsuura K, Kato K, Kawabata K, Monden N, Hasegawa Y, Onitsuka T, Fujimoto Y, Iwae S, Okami K, Matsuzuka T, Yoshino K, Nibu K, Kato T, Nishino H, Asakage T, Ota I, Kitamura M, Kubota A, Ueda T, Ikebuchi K, Watanabe A, Fujii M.	北海道大学、国立がん研究センター東病院、宮城県立がんセンター、東北大学、がん研究会有明病院、四国がんセンター、愛知県がんセンター中央病院、静岡がんセンター、名古屋大学、兵庫県立がんセンター、東海大学、福島県立医科大学、大阪成人病センター、神戸大学、慈恵医科大学、自治医科大学、東京大学、奈良県立医科大学、京都大学、神奈川県がんセンター、広島大学、京都府立医科大学、恵佑会札幌病院、東京医療センター	Lymph Node metastasis in T4 Maxillary sinus Squamous Cell Carcinoma:Incidence and Treatment Outcome.	Ann Surg Oncol 21: 1706-1710,2014
89	Homma A, Nakamaru Y, Hatakeyama H, Mizumachi T, Kano S, Furusawa J, Sakashita T, Shichinohe T, Ebihara Y, Hirano S, Furukawa H, Hayashi T, Yamamoto Y.	北海道大学	Early and long-term morbidity after minimally invasive total laryngo-pharyngo-esophagectomy with gastric pull-up reconstruction via thoracoscopy, laparoscopy and cervical incision.	Eur Arch Otorhinolaryngol. Epub ahead of print, 2014
90	Iizuka S, Oridate N, Nashimoto M, Tamura M, Fukuda S.	北海道大学、横浜市立大学、新潟薬科大学	Growth Inhibition of Head and Neck Squamous cell carcinoma cells by sgRNA targeting the Cyclin D1 mRNA based on TRUE Gene silencing	PLoS One 9, 2014
91	Kano S, Hayashi R, Homma A, Matsuura K, Kato K, Kawabata K, Monden N, Hasegawa Y, Onitsuka T, Fujimoto Y, Iwae S, Okami K, Matsuzuka T, Yoshino K, Fujii M.	北海道大学、国立がん研究センター東病院、宮城県立がんセンター、東北大学、がん研究会有明病院、四国がんセンター、愛知県がんセンター、静岡がんセンター、名古屋大学、兵庫県立がんセンター、東海大学、福島県立医科大学、大阪成人病センター、東京医療センター	Effect of local extension sites on survival in locally advanced maxillary sinus cancer.	Head Neck. 36: 1567-1572, 2014
92	Mizumachi T, Homma A, Kakizaki T, Sakashita T, Kano S, Hatakeyama H, Tsuchiya K, Yasuda K, Onimaru R, Shirato H, Taguchi J, Shimizu Y, Kinoshita I, Akita H.	北海道大学	Feasibility and efficacy of induction docetaxel, cisplatin, and 5-fluorouracil chemotherapy combined with concurrent weekly cisplatin chemoradiotherapy for locally advanced head and neck squamous cell carcinoma.	Int J Clin Oncol. Epub ahead of print, 2014
93	Morita S, Nakamaru Y, Homma A, Sakashita T, Masuya M, Fukuda S.	北海道大学	Hearing Preservation after Lateral Temporal Bone Resection for Early-Stage External Auditory Canal Carcinoma.	Audiol Neurootol. 19: 351-357, 2014
94	Morita S, Nakamaru Y, Obara N, Masuya M, Fukuda S	北海道大学	Characteristics and Prognosis of Hearing Loss Associated with Vogt-Koyanagi-Harada Disease.	Audiol Neurootol. 19: 49-56, 2014
95	Nakamaru Y, Fujima N, Takagi D, Tsukahara A, Yoshida D, Fukuda S.	北海道大学	Prediction of the Attachment Site of Sinonasal Inverted Papilomas by Preoperative Imaging.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 123: 468-474, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
96	Nakamaru Y, Takagi D, Homma A, Hatakeyama S, Fukuda S.	北海道大学	Oxidative Stress Regulates IL-4 Gene Expression in Mast Cells through the Reduction of Histone Deacetylase.	Otolaryngol Head Neck Surg 152: 48-52, 2014
97	Sakashita T, Homma A, Hatakeyama H, Kano S, Mizumachi T, Furusawa J, Yoshida D, Fujima N, Onimaru R, Tsuchiya K, Yasuda K, Shirato H, Fukuda	北海道大学	The incidence of late neck recurrence in N0 maxillary sinus squamous cell carcinomas after superselective intra-arterial chemoradiotherapy without prophylactic neck irradiation.	Eur Arch Otorhinolaryngol. 271: 2767-2670, 2014
98	Sakashita T, Homma A, Hatakeyama H, Kano S, Mizumachi T, Furusawa J, Yoshida D, Fujima N, Onimaru R, Tsuchiya K, Yasuda K, Shirato H, Suzuki	北海道大学	Salvage operations for patients with persistent or recurrent cancer of the maxillary sinus after superselective intra-arterial infusion of cisplatin with concurrent radiotherapy.	Br J Oral Maxillofac Surg. 52: 323-328, 2014
99	Sakashita T, Homma A, Hatakeyama H, Mizumachi T, Kano S, Furusawa J, Iizuka S, Hoshino K, Hatanaka KC.	北海道大学	The potential diagnostic role of the number of ultrasonographic characteristics for patients with thyroid nodules evaluated as Bethesda I-V.	Front Oncol 4: 1-4, 2014
100	Sakashita T, Homma A, Hayashi R, Kawabata K, Yoshino K, Iwae S, Hasegawa Y, Nibu K, Kato T, Shiga K, Matsuura K, Monden N, Fujii M.	北海道大学、国立がん研究センター東病院、がん研有明病院、大阪成人病センター、兵庫県立がんセンター、愛知県がんセンター、神戸大学、慈恵医科大学、岩手医科大学、宮城県立がんセンター、四国がんセンター、東京医療センター	The role of initial neck dissection for patients with node-positive oropharyngeal squamous cell carcinomas.	Oral Oncol. 50: 657-661, 2014
101	Takagi D, Nakamaru Y, Fukuda S.	北海道大学	Otologic Manifestations of Immunoglobulin G4-Related Disease.	Ann Otol Rhinol Laryngol. 123: 420-424, 2014
102	Kuwatani M, Kawakami H, Zen Y, Kawakubo K, Kudo T, Abe Y, Kubo K, Sakamoto N	Gastroenterology and Hepatology	Difference from bile duct cancer and relationship between bile duct wall thickness and serum IgG/IgG4 levels in IgG4-related sclerosing cholangitis.	Hepatogastroenterology
103	Kuwatani M, Kawakami H, Hayashi T, Eto K, Yamato H, Onodera M, Naruse H, Oba K.	Gastroenterology and Hepatology	Effect of antispasmodic drugs on endoscopic ultrasound/endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration: A multicenter randomized controlled trial.	Endosc Ultrasound
104	小松嘉人	北海道大学病院腫瘍センター 消化器内科	An open-label, randomized, comparative, phase III study on effects of reducing steroid use in combination with Palonosetron.	Cancer Sci. 2015 Apr 15.
105	小松嘉人	北海道大学病院腫瘍センター 消化器内科	Regorafenib for advanced gastrointestinal stromal tumors following imatinib and sunitinib treatment: a subgroup analysis evaluating Japanese patients in the phase III GRID trial.	Int J Clin Oncol. 2015 Feb 6. 本論文は下記LancetのGRID試験における日本人サブ解析結果をまとめたもの。
106	Aoyagi S	皮膚科	Intraoperative use of spectroscopic detection of protoporphyrin IX from oral 5-aminolevulinic acid on basal cell carcinoma and squamous cell carcinoma during Mohs surgery.	Lasers Surg Med

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
107	Aoyagi S	皮膚科	Technique for histological control of surgical margins in lip cancer.	J Dermatol
108	Fujita Y	皮膚科	Tubular Spitz naevus mimicking eccrine spiradenoma.	Acta Derm Venereol
109	Haga N	皮膚科	Two cases of pseudolymphoma on the lips.	Br J Dermatol
110	Hata H	皮膚科	MUC5AC expression correlates with invasiveness and progression of extramammary Paget's disease.	J Eur Acad Dermatol Venereol
111	Hata H	皮膚科	Lymphangiosarcoma with strong positivity of D2-40 and LYVE-1 presenting different clinical features from angiosarcoma.	J Dermatol
112	Hata H	皮膚科	Solitary fibrous tumour fluctuating in size with menstrual cycle.	Clin Exp Dermatol
113	Hata H	皮膚科	Ultrasound B-mode and elastographic findings of angiomatoid fibrous histiocytoma.	Clin Exp Dermatol
114	Hirata Y	皮膚科	Bilateral axillary Paget's disease: diagnostic pitfalls of dermoscopic features.	Int J Dermatol
115	Horie K	皮膚科	Solitary Tumour on the Neck: A Quiz.	Acta Derm Venereol
116	Ito T	皮膚科	Spontaneously resolving granulomatous tattoo reaction in multiple color regions.	J Dermatol
117	Ito T	皮膚科	Dermoscopic features of plasma cell cheilitis and actinic cheilitis.	Acta Derm Venereol
118	Ito T	皮膚科	Tubular apocrine adenoma clinically and dermoscopically mimicking basal cell carcinoma.	J Am Acad Dermatol
119	Izumi K	皮膚科	Localized cutaneous amyloidosis associated with poikilodermatous mycosis fungoides.	Acta Derm Venereol
120	Kikuchi K	皮膚科	Exacerbation of Pemphigus Foliaceus After Electron-beam Radiation.	Acta Derm Venereol

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
121	Kitamura S	皮膚科	"Sprinkle brightness lesion" appearance in ultrasound B-mode findings of sinusoidal hemangioma.	J Dermatol
122	Koguchi H	皮膚科	Characteristic findings of handprint and dermoscopy in reticulate acropigmentation of Kitamura.	Clin Exp Dermatol
123	Koguchi H	皮膚科	Behcet's disease-like symptoms associated with myelodysplastic syndrome with trisomy 8: A case report and review of the literature.	Acta Derm Venereol
124	Mizuno O	皮膚科	Highly prevalent SERPINB7 founder mutation causes pseudodominant inheritance pattern in Nagashima-type palmoplantar keratosis.	Br J Dermatol
125	Mizuno O	皮膚科	Sweet's syndrome presenting with vegetative nodules on the hands: relationship to neutrophilic dermatosis of the dorsal hands.	Int J Dermatol
126	Moriuchi R	皮膚科	Acquired plantar port-wine stain showing a red parallel ridge pattern under dermoscopy.	Clin Exp Dermatol
127	Muramatsu K	皮膚科	Repeated skin sampling and prolonged incubation period identified cutaneous Mycobacterium chelonae infection on the face in an immunocompetent man.	Br J Dermatol
128	Nishie W	皮膚科	A recurrent 'hot spot' glycine substitution mutation, G2043R in COL7A1, induces dominant dystrophic epidermolysis bullosa associated with intracytoplasmic accumulation of pro-collagen VII.	J Dermatol Sci
129	Nomura Y	皮膚科	A novel NCSTN mutation alone may be insufficient for the development of familial hidradenitis suppurativa.	J Dermatol Sci
130	Ohguchi Y	皮膚科	A new filaggrin gene mutation in a Korean patient with ichthyosis vulgaris.	Eur J Dermatol
131	Saito N	皮膚科	An annexin A1-FPR1 interaction contributes to necroptosis of keratinocytes in severe cutaneous adverse drug reactions.	Sci Transl Med
132	Shimizu S	皮膚科	Kindler syndrome with severe intestinal involvement: A 31-year follow-up.	Acta Derm Venereol
133	Shinkuma S	皮膚科	Long-term follow-up of cultured epidermal autograft in a patient with recessive dystrophic epidermolysis bullosa.	Acta Derm Venereol
134	Takashima S	皮膚科	Tumoral calcinosis in chronic renal failure.	Lancet Diabetes Endocrinol

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
135	Tsujiwaki M	皮膚科	Recurrent course and CD30 expression of atypical T lymphocytes distinguish lymphomatoid papulosis from primary cutaneous aggressive epidermotropic CD8+ cytotoxic T-cell lymphoma.	Acta Derm Venereol
136	Ujiie H	皮膚科	Bullous pemphigoid autoantibodies directly induce blister formation without complement activation.	J Immunol
137	Yanagi T	皮膚科	PCTAIRE1 phosphorylates p27 and regulates mitosis in cancer cells.	Cancer Res
138	Yanagi T	皮膚科	PCTAIRE1 regulates p27 stability, apoptosis and tumor growth in malignant melanoma.	Oncoscience
139	岡本 祥三	核医学診療科	Lung uptake on I-131 therapy and short-term outcome in patients with lung metastasis from differentiated thyroid cancer.	Ann Nucl Med 28(2): 81-87, 2014
140	吉永 恵一郎	医学研究科 核医学分野	Effects and safety of 131I-metaiodobenzylguanidine (MIBG) radiotherapy in malignant neuroendocrine tumors - Results from a multicenter observational registry.	Endocr. J 61(12):1171-1180, 2014
141	Kikuchi Y	放射線診断科	Quantification of myocardial blood flow using dynamic 320-row multi-detector CT as compared with 15O-H ₂ O PET	Eur Radiol
142	Fujima N	放射線診断科	Arterial spin labeling to determine tumor viability in head and neck squamous cell carcinoma by pseudo-continuous arterial spin labeling: Comparison with dynamic contrast-enhanced MRI	J Magn Reson Imaging
143	Fujima N	放射線診断科	Arterial spin labeling to determine tumor viability in head and neck squamous cell carcinoma: Assessment of perfusion-related parameters compared with dynamic contrast-enhanced MRI	Magn Reson Imaging
144	Yoshida A	放射線診断科	Two types of neurons in the primate globus pallidus external segment play distinct roles in antisaccade generation	Cereb Cortex
145	Miyamoto N	放射線診断科	Prevalence of pancreatic anastomotic failure after pancreatic head resection using preoperative diffusion-weighted MRI	Jpn J Radiol
146	Fujima N	放射線診断科	Arterial spin labeling to determine tumor viability in head and neck cancer before and after treatment	J Magn Reson Imaging
147	Shimizu, Y., Sasamori, T., Sato, K., Hirotsu, M., Nonaka, T., Takahashi, I., Matsushima, M., Minami, N., Nakamichi, K., Saijo, M., Hatanaka, K., Shiga, T., Tanaka, S., Sasaki, H.:	Department of Neurology, Hokkaido University Graduate School of Medicine, N15 W7, Kita-ku, Sapporo, 060-8638, Japan.	Usefulness of 11C-methionine-positron emission tomography for the diagnosis of progressive multifocal leukoencephalopathy.	J Neurol 261; 2314-2318, 2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
148	Tomiya Y1, Manabe O, Oyama-Manabe N, Naya M, Sugimori H, Hirata K, Mori Y, Tsutsui H, Kudo K, Tamaki N, Katoh C.	Department of Nuclear Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan	Quantification of myocardial blood flow with dynamic perfusion 3.0 Tesla MRI: Validation with 15 o-water PET.	J Magn Reson Imaging
149	Hirabayashi K, Kinugawa S, Yokota T, Takada S, Fukushima A, Suga T, Takahashi M, Ono T, Morita N, Omokawa M, Harada K, Oyama-Manabe N, Shirato H, Matsushima S, Okita K.	Department of Cardiovascular Medicine, Hokkaido University Graduate School of Medicine, Sapporo, Japan	Intramyocellular lipid is increased in the skeletal muscle of patients with dilated cardiomyopathy with lowered exercise capacity	Int J Cardiol
150	Okada K, Mikami T, Kaga S, Nakabachi M, Abe A, Yokoyama S, Nishino H, Nishida M, Shimizu C, Iwano H, Yamada S, Tsutsui H.	Graduate School of Health Sciences, Hokkaido University,	Decreased aorto-septal angle may contribute to left ventricular diastolic dysfunction in healthy subjects.	J Clin Ultrasound
151	Shimizu S, Nishioka K, Suzuki R, Shinohara N, Maruyama S, Abe T, Kinoshita R, Katoh N, Onimaru R, Shirato H.	放射線治療科	Early results of urethral dose reduction and small safety margin in intensity-modulated radiation therapy (IMRT) for localized prostate cancer using a real-time tumor-tracking radiotherapy (RTRT) system.	Radiat Oncol.
152	Shimizu S, Matsuura T, Umezawa M, Hiramoto K, Miyamoto N, Umegaki K, Shirato H	放射線治療科	Preliminary analysis for integration of spot-scanning proton beam therapy and real-time imaging and gating.	Phys Med.
153	Shimizu S, Miyamoto N, Matsuura T, Fujii Y, Umezawa M, Umegaki K, Hiramoto K, Shirato H.	放射線治療科	A proton beam therapy system dedicated to spot-scanning increases accuracy with moving tumors by real-time imaging and gating and reduces equipment size.	PLoS One
154	Onodera S, Aoyama H, Tha KK, Hashimoto N, Toyomaki A, Terae S, Shirato H.	放射線治療科	The value of 4-month neurocognitive function as an endpoint in brain metastases trials.	J Neurooncol. 2014 Nov;120(2):311-9.
155	Kako Y, Ito K, Hashimoto N, Toyoshima K, Shimizu Y, Mitsui N, Fujii Y, Tanaka T, Kusumi I	Department of Psychiatry, Hokkaido University Graduate School of Medicine	The relationship between insight and subjective experience in schizophrenia.	Neuropsychiatr Dis Treat, 10:1415-1422,2014

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
156	Inoue T, Kohno K, Baba H, Takeshima M, Honma H, Yukiei Nakai, Toshihito Suzuki T, Hatano K, Arai H, Matsubara S, Kusumi I, Terao T	Department of Psychiatry, Hokkaido University Graduate School of Medicine. Department of Neuropsychiatry, Oita University Faculty of Medicine. Department of Psychiatry, Juntendo University School of Medicine. Department of Psychiatry, Juntendo Koshigaya Hospital. Department of Psychiatry, Kouseiren Takaoka Hospital. Department of Psychiatry, Obihiro National Hospital. Department of Psychiatry, Hokkaido University Graduate School of Medicine. Department of Neuropsychiatry, Oita University Faculty of Medicine.	Does temperature or sunshine mediate the effect of latitude on affective temperaments? A study of 5 regions in Japan.	J Affect Disord 172:141-145, 2015
157	Inoue T, Inagaki Y, Kimura T, Shirakawa O	Department of Psychiatry, Hokkaido University Graduate School of Medicine. Neuroscience Department, Medical Affairs Division, GlaxoSmithKline K.K.. Department of Neuropsychiatry, Kinki University, Faculty of Medicine.	Prevalence and predictors of bipolar disorders in patients with a major depressive episode: the Japanese epidemiological trial with latest measure of bipolar disorder (JET-LMBP).	J Affect Disord 174:535-541, 2015
158	Oyama A	北海道大学病院 形成外科 講師	Minor-form/microform cleft lip repair:The importance of identification and utilization of cupid bow peak on the lateral lip.	Ann plast Surg
159	Funayama E	医学研究科 形成外科学分野 講師	Important points for primary cleft palate repair for speech derived form speech outcome after three different types of palatoplasty.	Int J Pediatr Otorhinolaryngol
160	Hayashi T	北海道大学病院 形成外科 客員臨床医師(歯学部口腔外科 准教授)	Dominant lymph drainage in the upper extremity and upper trunk region:Evaluation of lymph drainage in patients with skin melanomas.	Int J Clin Oncol
161	Hayashi T	北海道大学病院 形成外科 客員臨床医師(歯学部口腔外科 准教授)	An analysis of cheek reconstruction after tumor excision in melanoma patients.	J Craniofac Surg

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
162	Murao N	北海道大学病院 形成外科 助教	Treg-enriched CD4+ T cells attenuate collagen synthesis in keloid fibroblasts.	Exp Dermatol
163	Ishikawa K	北海道大学病院 形成外科 医員	Incisional surgical site infection after elective open surgery for colorectal cancer.	Int J Surg Oncol
164	Fujita H, Hatanaka Y, Sutoh Y, Suzuki Y, Oba K, Hatanaka KC, Mitsuhashi T, Otsuka N, Fugo K, Kasahara M, Matsuno Y	Department of Surgical Pathology, Hokkaido University Hospital	Immunohistochemical validation and expression profiling of NKG2D ligands in a wide spectrum of human epithelial neoplasms	J Histochem Cytochem. 2015 Mar;63(3):217-27. doi: 10.1369/0022155414563800. Epub 2014 Dec 3.
165	Nitta T, Mitsuhashi T, Hatanaka Y, Miyamoto M, Oba K, Tsuchikawa T, Suzuki Y, Hatanaka KC, Hirano S, Matsuno Y	Department of Surgical Pathology, Hokkaido University Hospital	Prognostic significance of epithelial-mesenchymal transition-related markers in extrahepatic cholangiocarcinoma: comprehensive immunohistochemical study using a tissue microarray	Br J Cancer. 2014 Sep 23;111(7):1363-72. doi: 10.1038/bjc.2014.415. Epub 2014 Jul 31
166	Tamoto E	消化器外科 II	Portal vein resection using the no-touch technique with a hepatectomy for hilar cholangiocarcinoma.	HPB (Oxford). 2014 Jan;16(1):56-61. doi: 10.1111/hpb.12067.
167	Noji T	消化器外科 II	Surgical resection of colorectal recurrence of gastric cancer more than 5 years after primary resection.	Int J Surg Case Rep. 2014;5(12):954-7. doi: 10.1016/j.ijscr.2014.10.005.
168	Fukuda N	消化器外科 II	Validation of histological diagnostic methods for detecting endothelin B receptor expression.	Oncol Rep. 2014 Apr;31(4):1561-6. doi: 10.3892/or.2014.3031.
169	Shichinohe T	消化器外科 II	Thoracoscopic enucleation of esophageal submucosal tumor by prone position under artificial pneumothorax by CO2 insufflation.	Surg Laparosc Endosc Percutan Tech. 2014 Apr;24(2):e55-8. doi: 10.1097
170	Noji T	消化器外科 II	Surgical Outcome of Hilar Plate Resection: Extended Hilar Bile Duct Resection Without Hepatectomy.	J Gastrointest Surg. 2014 Jun;18(6):1131-7. doi: 10.1007/s11605-014-2490-8.
171	Tsuchikawa T	消化器外科 II	Advances in the surgical treatment of hilar cholangiocarcinoma.	Expert Rev Gastroenterol Hepatol. 2015 Mar;9(3):369-74. doi: 10.1586
172	Hirano S	消化器外科 II	Oncological benefit of preoperative endoscopic biliary drainage in patients with hilar cholangiocarcinoma.	J Hepatobiliary Pancreat Sci. 2014 Aug;21(8):533-40. doi: 10.1002
173	Sato S	消化器外科 II	Impact of the tumor microenvironment in predicting postoperative hepatic recurrence of pancreatic neuroendocrine tumors.	Oncol Rep. 2014 Dec;32(6):2753-9. doi: 10.3892
174	Takahashi M	消化器外科 II	Giant primary angiosarcoma of the small intestine showing severe sepsis.	World J Gastroenterol. 2014 Nov 21;20(43):16359-63.

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
175	Noji T	消化器外科Ⅱ	Post-operative depletion of platelet count is associated with anastomotic insufficiency following intrahepatic cholangiojejunostomy: a case-control study from the results of 220 cases of intrahepatic cholangiojejunostomy.	BMC Surg. 2014 Oct 16;14:81.
176	Yukie Nitta	Department of Dental Anesthesiology, Graduate School of Dental Medicine	Acute Angle-Closure Glaucoma After General Anesthesia for Bone Grafting.	Anesthesia Progress:Vol.61(4), p162-164, 2014
177	篠原 信雄	泌尿器科	Should inclusion criteria for active surveillance for low-risk prostate cancer be more stringent? From an interim analysis of PRIAS-JAPAN.	World J Urol.
178	松本隆児	泌尿器科	RENAL neprometry score is a predictive factor for the annual growth rate of renal mass.	International journal of urology
179	三井貴彦	泌尿器科	Preoperative renal scar as a risk factor of postoperative metabolic acidosis following ileocystoplasty in patients with neurogenic bladder	Spinal cord
180	Kinoshita I	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	North East Japan Study Group and Tokyo Cooperative Oncology Group. Randomized phase II study of concurrent versus sequential alternating gefitinib and chemotherapy in previously untreated non-small cell lung cancer with sensitive EGFR mutations: NEJ005/TCOG0902	Ann Oncol. 26:888-894, 2015 May
181	Kinoshita I	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Factors associated with a poor response to gefitinib in the NEJ002 study: Smoking and the L858R mutation	Lung Cancer. 88:181-186, 2015 May
182	Kinoshita I, Dosaka-Akita H	Department of Medical Oncology, Hokkaido University, Graduate School of Medicine	Phase II trial of carboplatin and pemetrexed as first-line chemotherapy for non-squamous non-small cell lung cancer, and correlation between the efficacy/toxicity and genetic polymorphisms associated with pemetrexed metabolism: Hokkaido Lung Cancer Clinical Study Group Trial (HOT) 0902	Cancer Chemother Pharmacol. 74:1149-1157, 2014 Dec
183				
184				
185				
186				
187				

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
188				
189				
190				

(注) 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
～				

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
呼吸不全に関する調査	西村正治	内科 I	250,000	補 委	厚生労働省
びまん性肺疾患に関する研究	西村正治	内科 I	500,000	補 委	厚生労働省
ALK融合遺伝子陽性のⅢ期非小細胞肺癌に対する集学的治療法の開発に関する研究	大泉聡史	内科 I	2,000,000	補 委	厚生労働省
希少遺伝子変異を有する小細胞肺癌に対する新規治療法の確立に関する研究	大泉聡史	内科 I	1,500,000	補 委	厚生労働省
重症肺高血圧症に対するエビデンスを構築する新規戦略的研究(分担)	辻野一三	内科 I	260,000	補 委	厚生労働省
アレルギー疾患対策に必要とされる疫学調査と疫学データベース作成に関する研究(分担)	今野 哲	内科 I	450,000	補 委	厚生労働省
難治性気道疾患の病態解明と古部t化治療への展開	西村正治	内科 I	10,920,000	補 委	日本学術振興会
呼吸器疾患に伴う肺高血圧症の肺血管および右心系に関する臨床病理学的検討	辻野一三	内科 I	3,250,000	補 委	日本学術振興会
CT所見、バイオマーカーから見た気管支喘息における上下気道の連関	今野 哲	内科 I	1,900,000	補 委	日本学術振興会
閉塞性肺疾患における肺CT3次元軌道解析	清水薫子	内科 I	1,950,000	補 委	日本学術振興会
新規抗リン脂質抗体症候群モデルマウスの作成	渥美達也	内科II	6,000,000	補 委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群におけるアデノシン二リン酸(ADP)受容体を介した血栓形成機	渥美達也	内科II	1,400,000	補 委	日本学術振興会
シェーグレン症候群の疾患感受性遺伝子に関する研究	堀田哲也	内科II	1,200,000	補 委	日本学術振興会
医学部及び医学研究科におけるグローバル化促進のための英語教育プログラム	オルガ・アメンガアル	内科II	1,300,000	補 委	日本学術振興会
抗リン脂質抗体症候群における補体活性化機序の関与について	奥 健志	内科II	1,400,000	補 委	日本学術振興会
2型糖尿病病態における膵β細胞量増加への治療戦略	中村昭伸	内科II	1,300,000	補 委	日本学術振興会
多発性嚢胞腎の高血圧に関わる嚢胞増悪因子の解析と治療法の解明	西尾妙織	内科II	1,950,000	補 委	日本学術振興会
抗好中球細胞質抗体関連血管炎と好中球細胞死の制御の関係に関する解析	中沢大悟	内科II	3,900,000	補 委	日本学術振興会

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
羊膜由来間葉系幹細胞の再生医療製品化と急性GVHDに対する治療応用	大西俊介	消化器内科	910,000	補 委	文部科学省
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	大西俊介	消化器内科	4,700,000	補 委	厚生労働省
心筋リモデリングにおけるナチュラルキラーT細胞による炎症制御機構の解明と治療応用	筒井裕之	循環器内科	5,330,000	補 委	日本学術振興会
心サルコイドーシスの診断における特異的アクネ菌抗体を用いた免疫組織染色の有用性	榊原守	循環器内科	1,200,000	補 委	日本学術振興会
心筋血流予備能を用いた拡張障害心不全患者における包括的リスク評価	納谷昌直	循環器内科	700,000	補 委	日本学術振興会
骨格筋不全におけるmitoNEETによるミトコンドリア機能制御の分子機構の解明	絹川真太郎	循環器内科	1,700,000	補 委	日本学術振興会
特発性心筋症に関する調査研究	筒井裕之	循環器内科	22,385,000	補 委	厚生労働省
慢性心不全患者における心不全再入院予測モデルの構築と治療法の標準化に関する研究	筒井裕之	循環器内科	1,000,000	補 委	厚生労働省
遺伝性心血管疾患における集中的な遺伝子解析及び原因究明に関する研究	筒井裕之	循環器内科	1,500,000	補 委	厚生労働省
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	筒井裕之	循環器内科	14,120,000	補 委	厚生労働省
虚血性心疾患における心電図同期SPECT(QGS)検査に関する国内臨床データベース作成のための調査研究-4 冠血行再建術による心血管イベントリスクの減少効果負荷心筋血流SPECTを用いた虚血量で評価するための調査研究(J-ACCESS IV)	筒井裕之	循環器内科	252,000	補 委	公益財団法人循環器病研究振興財団
食・運動・健康・医療をつなぐ知で家庭に拓く次世代健康生活創造の国際拠点	筒井裕之	循環器内科	18,865,000	補 委	独立行政法人科学技術振興機構
成人T細胞白血病に対する標準治療としての同種造血幹細胞移植法の確立及びゲノム解析に基づく治療法の最適化に関する研究	豊嶋崇徳	血液内科	2,000,000	補 委	厚生労働省
新たな造血幹細胞移植法の開発:生着効率の向上を目指して	豊嶋崇徳	血液内科	800,000	補 委	厚生労働省
国内で流行するHIVとその薬剤耐性株の動向把握に関する研究	豊嶋崇徳	血液内科	1,500,000	補 委	厚生労働省
GVHDによるホメオスタシス破綻のメカニズム	豊嶋崇徳	血液内科	11,010,000	補 委	日本学術振興会
Ph陽性急性リンパ性白血病のチロシンキナーゼ阻害剤抵抗機序の解析と克服	近藤健	血液内科	1,300,000	補 委	厚生労働省
造血幹細胞移植後の食細胞システムの再構築	橋本大吾	血液内科	1,560,000	補 委	厚生労働省

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
造血幹細胞移植後不妊の新たなメカニズム	豊嶋崇徳	血液内科	1,820,000	補	日本学術振興会
				委	
造血幹細胞移植後の免疫病態に關与する自然免疫活性化の新規メカニズム	白鳥聡一	血液内科	2,080,000	補	厚生労働省
				委	
テロミラーゼによるDNA二重鎖切断修復機構の解明	小野澤真弘	血液内科	1,430,000	補	厚生労働省
				委	
白血病やGVHDにおける新規のペア型免疫レセプターを標的とした治療法の開発	松川敏大	血液内科	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
HIV感染症の医療体制の整備に関する研究	豊嶋崇徳	血液内科	4,500,000	補	厚生労働省
				委	
成人T細胞白血病の治療を目指した病因ウイルス特異抗原を標的とする新規複合的ワクチン療法:抗CCR4抗体を併用した樹状細胞療法 第I/II相試験	豊嶋崇徳	血液内科	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
血液凝固因子製剤によるHIV感染被害者の長期療養体制の整備に関する患者参加型研究	遠藤知之	血液内科	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
人工キメラ遺伝子と肝臓特異的な輸送担体の開発を基盤とした肝臓内HBVDNA不活化を目指した新規治療法の開発	武富 紹信	消化器外科学分野 I	15,000,000	補	厚生労働省
				委	
次世代シーケンシング・ゲノムワイド関連解析を用いたC型肝炎治療に伴う肝病態進展軽快、肝発癌に関わる宿主因子の解析	武富 紹信	消化器外科学分野 I	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
ゲノム網羅的解析によるB型肝炎ウイルス感染の病態関連遺伝子の同定と新規診断法の開発	武富 紹信	消化器外科学分野 I	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	本多 昌平	消化器外科 I	200,000	補	厚生労働省
				委	
体外誘導免疫制御性リンパ球を用いた細胞治療による免疫寛容誘導に関する研究	山下 健一郎	移植外科学講座	5,200,000	補	日本学術振興会
				委	
臓器不足解消を目指した画期的脂肪肝グラフト修復法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部	5,200,000	補	日本学術振興会
				委	
消化器癌の微小転移同定システムの臨床応用	崎浜 秀康	消化器外科 I	910,000	補	日本学術振興会
				委	
新規バイオマーカーAPC結合蛋白EB1の肝細胞癌発癌進展における分子機構の解明	中西 一彰	消化器外科学分野 I	2,990,000	補	日本学術振興会
				委	
大腸癌浸潤・転移におけるHCGβの機能解析とその臨床応用	本間 重紀	消化器外科 I	2,340,000	補	日本学術振興会
				委	
siRNAを用いた肝移植グラフトの革新的体外治療法の開発	武富 紹信	消化器外科学分野 I	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	
細胞治療を併用した新しい免疫寛容誘導法に関する基礎的研究	山下 健一郎	移植外科学講座	1,950,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
肝細胞癌血管内皮の多様性と新規分子標的薬への応用	高橋 典彦	消化器外科 I	1,040,000	補 委	日本学術振興会
シヤペロン分子により生存シグナルを増強させる画期的な肝グラフト修復法の開発	嶋村 剛	臓器移植医療部	1,820,000	補 委	日本学術振興会
Genetic・Epigenetic解析を統合した肝芽腫予後予測マーカーの確立	本多 昌平	消化器外科 I	1,040,000	補 委	日本学術振興会
ヒト化マウス血管移植モデルにおけるヒトアナーキー細胞の慢性拒絶反応抑制効果の検討	後藤 了一	消化器外科 I	1,430,000	補 委	日本学術振興会
体外でタンパク質を発現させる画期的な心グラフト機能修飾法の開発	若山 顕治	消化器外科 I	1,560,000	補 委	日本学術振興会
血漿タンパク質LRGの翻訳後修飾に着目した膵癌早期診断マーカーの解析	柿坂 達彦	消化器外科 I	1,430,000	補 委	日本学術振興会
網羅的糖鎖解析による新規癌マーカーの探索と診断技術の開発	神山 俊哉	消化器外科学分野 I	1,500,000	補 委	日本学術振興会
術中蛍光イメージングの応用による大量肝切除時の肝不全予測法の確立	田中 栄一	消化器外科 II	1,300,000	補 委	日本学術振興会
早期胃癌に対する新しい蛍光腹腔鏡システムを用いたセンチネルリンパ節同定法の確立	海老原裕磨	消化器外科 II	1,300,000	補 委	日本学術振興会
膵癌新規治療法の開発へ向けた細胞膜透過性ペプチドの応用	中村 透	消化器外科 II	1,300,000	補 委	日本学術振興会
内視鏡外科手術修練を支援するcadaver trainingカリキュラムの構築	七戸 俊明	消化器外科 II	2,600,000	補 委	日本学術振興会
EPHA4を標的とした膵癌バイオマーカーの探索と膵癌新規治療法の開発	平野 聡	消化器外科 II	2,470,000	補 委	日本学術振興会
固形癌術前化学療法による抗腫瘍免疫能誘導と術後再発予防への個別化治療戦略	土川 貴裕	消化器外科 II	2,470,000	補 委	日本学術振興会
双方向インターネット通信を利用した遠隔外科教育カリキュラム構築	倉島 庸	消化器外科 II	1,690,000	補 委	日本学術振興会
プロドラッグシステムを応用した増殖型レトロウイルスによる新規膵癌治療法の開発	平岡 圭	消化器外科 II	2,470,000	補 委	日本学術振興会
肺癌血管内皮細胞を標的とした分子標的治療とコンパニオン診断薬の開発	樋田泰浩	循環器・呼吸器外科	2,730,000	補 委	日本学術振興会
マウスiPS細胞から軟骨細胞へ分化生業機能を有する糖鎖マーカーの探索	岩崎 倫政	整形外科	2,210,000	補 委	日本学術振興会
自律神経障害性疼痛の診断基準作成と新規治療を開発するための研究	岩崎 倫政	整形外科	700,000	補 委	厚生労働省

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
内在性線維芽細胞・基質複合体被覆下における移植腱マトリクス再構築機序の解明と制御	近藤 英司	整形外科	1,560,000	補	日本学術振興会
				委	
細胞周期関連遺伝子による椎間板恒常性維持制御機構の解明	須藤 英毅	整形外科	2,210,000	補	日本学術振興会
				委	
骨粗鬆症性椎体骨折に関する保存的初期治療の指針策定	高畑 雅彦	整形外科	800,000	補	厚生労働省
				委	
間接リウマチ患者の骨質異常脆性骨折リスクの増加の分子メカニズム	高畑 雅彦	整形外科	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
超高分子量ヒアルロン酸の関節軟骨マトリクスに与える影響の機序の解明と制御	船越 忠直	整形外科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	
損傷軟骨治療過程におけるシンデカン-4の役割解析	小野寺 智洋	整形外科	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	
特発性大腿骨頭壊死症の治療法確立と革新的予防法開発に向けた全国学研究	高橋 大介	整形外科	1,000,000	補	厚生労働省
				委	
標準的治療の確立が望まれる難治性疾患に対する新規治療法の開発	篠原 信雄	泌尿器科	300,000	補	厚生労働省
				委	
尿道下裂症例における思春期以降の排尿動態、内分泌、父性獲得能に関する研究	守屋 仁彦	泌尿器科	1,560,000	補	文部科学省
				委	
排尿障害における前頭前野皮質の役割の解明	橘田 岳也	泌尿器科	1,300,000	補	文部科学省
				委	
腫瘍血管内皮分泌タンパクを用いた腎がんの転移予測	篠原 信雄	泌尿器科	2,600,000	補	文部科学省
				委	
インシデント報告、ニアミス報告を利用した高信頼性手術チームの醸成に関する研究	安部 崇重	泌尿器科	650,000	補	文部科学省
				委	
ダイオキシン受容体リガンド依存性のアンドロゲン受容体分解を介した前立腺癌制御	丸山 覚	泌尿器科	3,120,000	補	文部科学省
				委	
腫瘍血管内皮細胞由来exosomal-miRNAの癌診断治療への応用	土屋 邦彦	泌尿器科	2,730,000	補	文部科学省
				委	
ユビチキン化酵素を標的とした去勢抵抗性前立腺癌の治療法開発	宮島 直人	泌尿器科	2,470,000	補	文部科学省
				委	
正常血糖環境下での糖尿病性腎症の可逆性とその変化に対する免疫抑制剤の影響の研究	岩見 大基	泌尿器科	1,430,000	補	文部科学省
				委	
悪性黒色腫における腫瘍免疫の破綻を解明する！～マウスリンパ浮腫モデルを用いて～	山本 有平	形成外科	4,810,000	補	日本学術振興会
				委	
筋肉内静脈網を利用したNeurotization～培養シュワン細胞の血管内遊走	古川 洋志	形成外科	1,820,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
郭清術後のリンパ組織再構築術～悪性黒色腫予後の改善を目指して！	古川 洋志	形成外科	4,900,000	補
				委
ケロイドの免疫細胞治療を目指して！～制御性T細胞は炎症&線維化を抑制する～	村尾 尚規	形成外科	6,760,000	補
				委
リンパ浮腫を薬で治す！～DDS技術を駆使したVEGF-C徐放治療の開発	小山 明彦	形成外科	1,820,000	補
				委
DNゲルを用いた関節軟骨自然再生誘導を制御する物理・生物学的因子の解明と応用	北村 信人	スポーツ医学診療科	5,980,000	補
				委
損傷した腱マトリクスの治癒過程におけるマクロファージ遊走阻止因子の役割の解明	小野寺 純	スポーツ医学診療科	1,950,000	補
				委
自家半月板碎片移植が半月板欠損部におけるin situ半月再生に関する研究	河口 泰之	スポーツ医学診療科	2,080,000	補
				委
晩期再発乳癌の生物学的特徴と予測因子に関する研究	山下啓子	乳腺外科	2,600,000	補
				委
日本人女性のエストロゲンレセプター陽性乳癌の発症予防に向けた高危険群選別モデルの開発	山下啓子	乳腺外科	19,010,000	補
				委
IκBキナーゼ阻害によるぶどう膜炎制御	石嶋 漢	眼科	2,210,000	補
				委
後眼部DDS強膜リングを用いたレニン-アンジオテンシン系制御による失明疾患治療	石田 晋	眼科	4,420,000	補
				委
グライコプロテイン法による糖尿病網膜症関連糖鎖の網羅的解析	石田 晋	眼科	1,690,000	補
				委
Angptl2阻害点眼薬によるぶどう膜炎軽症化の検討	岩田大樹	眼科	1,430,000	補
				委
翼状片におけるリンパ管新生因子VEGF-Cとその受容体システムの制御	大口剛司	眼科	1,300,000	補
				委
網膜疾患における受容体随伴プロレニン系と断片別(プロ)レニン受容体の機能解析	神田敦宏	眼科	1,300,000	補
				委
糖尿病網膜症におけるアクロレインの病態関与	齋藤 航	眼科	1,950,000	補
				委
白血球接着分子 VAP-1 阻害によるぶどう膜炎軽症化の検討	竹本裕子	眼科	1,300,000	補
				委
網羅的糖鎖解析グライコミクスによるぶどう膜炎炎症増悪マーカー探索	南場研一	眼科	1,560,000	補
				委
抗炎症・抗酸化作用による正常眼圧緑内障モデル動物の網膜神経節細胞死抑制	新田卓也	眼科	1,430,000	補
				委

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補	委
糖尿病網膜症における可溶性VAP-1の産生メカニズムとその病態関与	野田航介	眼科	1,690,000	補	日本学術振興会
ユビキチンプロテアソーム機能低下による網膜変性の解析	野田実香	眼科	1,560,000	補	日本学術振興会
天然由来抗酸化色素によるぶどう膜炎軽症化の検討	水内一臣	眼科	1,300,000	補	日本学術振興会
糖尿病網膜症におけるGAG糖鎖およびRAGEの関連性解析	吉澤史子	眼科	1,560,000	補	日本学術振興会
先端融合領域イノベーション創出拠点形成プログラム「未来創薬医療イノベーション拠点形成」	石田 晋	眼科	8,000,000	補	文部科学省
再発・転移頭頸部扁平上皮癌に対するPaclitaxel+Carboplatin+Cetuximab(PCE)併用療法の第II相試験	本間 明宏	耳鼻咽喉科	324,000	補	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
局所進行上顎洞癌に対する導入化学療法(ドセタキセル+シスプラチン+セツキシマブ)と放射線療法及びセツキシマブ併用療法の第II相試験	本間 明宏	耳鼻咽喉科	108,000	補	公益財団法人パブリックヘルスリサーチセンター
進行上顎洞癌に対する超選択的動注化学療法を併用した放射線治療による新規治療法開発に関する研究	本間 明宏	耳鼻咽喉科	32,500,000	補	厚生労働省
高悪性度唾液腺癌に対するオーダーメイド治療の開発	加納 里志	耳鼻咽喉科	1,170,000	補	日本学術振興会
頭頸部癌におけるcyclin D1標的sgRNAによる新規遺伝子標的治療の開発	坂下 智博	耳鼻咽喉科	650,000	補	日本学術振興会
ミトコンドリアDNAの解析による頭頸部癌の癌化、予後因子の解明	水町 貴論	耳鼻咽喉科	1,300,000	補	日本学術振興会
バイオインフォマティクスアプローチによる頭頸部癌のシグナル伝達ネットワークの解明	畠山 博充	耳鼻咽喉科	2,080,000	補	日本学術振興会
好酸球性副鼻腔炎におけるNKT細胞の役割と新しい治療戦略	高木 大	耳鼻咽喉科	1,820,000	補	日本学術振興会
SIRT1活性化剤によるアレルギー性鼻炎根治に向けた基礎的研究	中丸 裕爾	耳鼻咽喉科	1,170,000	補	日本学術振興会
頭頸部癌におけるEGFRパスウェイ分子の遺伝子変異とタンパク質立体構造変化	本間 明宏	耳鼻咽喉科	910,000	補	日本学術振興会
内転型痙攣性発声障害に対するチタンブリッジを用いた甲状軟骨形成術2型の効果に関する研究	畠山 博充	耳鼻咽喉科	7,030,000	補	厚生労働省
治験の実施に関する研究[A型ボツリヌス毒素]	畠山 博充	耳鼻咽喉科	1,000,000	補	厚生労働省
難治性聴覚障害に関する調査研究	福田 論	耳鼻咽喉科	800,000	補	厚生労働省

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
角化におけるミトコンドリアの役割	阿部理一郎	皮膚科	3,640,000	補 委	日本学術振興会
重症薬疹における特異的細胞死誘導受容体をターゲットにした新規治療薬開発	阿部理一郎	皮膚科	4,000,000	補 委	厚生労働省
X染色体の不活化を応用した表皮水疱症モザイクモデルの作製	西江 渉	皮膚科	3,640,000	補 委	日本学術振興会
Notchシグナル経路を中心とした慢性膿皮症の病態解明	野村友希子	皮膚科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
水疱性類天疱瘡における疾患特異的水疱形成機序の解明	岩田浩明	皮膚科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
乳房外パジェット病におけるMUC5ACの発現の強度と浸潤性および進展に関する検討	秦 洋郎	皮膚科	1,690,000	補 委	日本学術振興会
表皮水疱症に対する造血幹細胞移植療法の確立	清水 宏	皮膚科	7,800,000	補 委	日本学術振興会
重症薬疹の発症病態解明に対する包括的検討	阿部理一郎	皮膚科	4,290,000	補 委	日本学術振興会
重症薬疹の病態解明および発症予測、重症度予測マーカーの検索	阿部理一郎	皮膚科	33,150,000	補 委	厚生労働省
17型コラーゲン発現制御による画期的水疱症モデルの作成と応用	西江 渉	皮膚科	2,600,000	補 委	日本学術振興会
家族性慢性膿皮症の発症機序の解明と新規治療法の開発	乃村俊史	皮膚科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
iPS細胞を応用した表皮水疱症の根本的治療法の開発	藤田靖幸	皮膚科	8,060,000	補 委	日本学術振興会
プラスミンをターゲットとした水疱性類天疱瘡の発症機序解明	中村秀樹	皮膚科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
17型コラーゲンが制御する表皮基底細胞遊走メカニズムの解明	伊藤 圭	皮膚科	1,040,000	補 委	日本学術振興会
7型コラーゲンプロモーターを標的にした劣性栄養障害型表皮水疱症の新規治療法の開発	有田 賢	皮膚科	1,560,000	補 委	日本学術振興会
アトピー性皮膚炎の新規治療法の開発	浜坂明日香	皮膚科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
重症薬疹迅速診断キットの有用性の検討	村田純子	皮膚科	2,080,000	補 委	日本学術振興会
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立に関する研究	久住一郎	精神科神経科	4,000,000	補 委	厚生労働省

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
DNAメチル化修飾に着目したうつ病のマーカー作成－双極、単極、治療抵抗性うつ病の識別を目指して－	久住一郎	精神科神経科	1,100,000	補 委	厚生労働省
自殺対策大綱に関する自殺の要因分析や支援方法等に関する研究	齊藤卓弥	精神科神経科	1,500,000	補 委	厚生労働省
発達障害を含む児童・思春期精神疾患の薬物治療ガイドライン作成	齊藤卓弥	精神科神経科	500,000	補 委	厚生労働省
ヒト腹側線条体の報酬予測課題に対する機能変化と拡散テンソル画像について注目した、うつ病の難治化メカニズムの検討	井上猛	精神科神経科	1,800,000	補 委	厚生労働省
日本食におけるストレス・脳機能改善効果の解明	久住一郎	精神科神経科	31,490,000	補 委	農業・食品産業技術総合研究機構
気分障害の病態・発症機序における情動ストレス神経回路の役割に関する研究	井上猛	精神科神経科	1,040,000	補 委	文部科学省
双極性障害を対象とした簡便な心理社会的ツールの開発	田中輝明	精神科神経科	650,000	補 委	文部科学省
ドーパミン神経伝達の観点から、難治性うつ病の生物学的基盤をfMRIを用いて検討する	橋本直樹	精神科神経科	1,560,000	補 委	文部科学省
もやもや病における血管内皮前駆細胞の病態解析	實金清博	脳神経外科	3,120,000	補 委	日本学術振興会
急性期脳虚血に対する経脳室および経動脈冷却灌流による複合的局所脳低温療法の開発	鏡谷武雄	脳神経外科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
表現促進現象を有する家族性もやもや病のCNV解析	吉本哲之	脳神経外科	1,170,000	補 委	日本学術振興会
脳微小血管内皮細胞の老化、細胞特性におけるSIRT1の病態的役割についての解明	實金清博	脳神経外科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
悪性神経膠腫に対するALA-PET誘導式音響力学療法の開発	小林浩之	脳神経外科	1,950,000	補 委	日本学術振興会
革新的医薬品・医療機器・再生医療等製品実用化促進事業	實金清博	脳神経外科	38,000,000	補 委	厚生労働省
経脳室および経動脈冷却灌流による新規局所低温療法の臨床応用	鏡谷武雄	脳神経外科	6,240,000	補 委	厚生労働省
もやもや病(ウイリス動脈輪閉塞症)の診断・治療に関する研究	實金清博	脳神経外科	13,800,000	補 委	厚生労働省
未来創薬・医療イノベーション拠点形成	實金清博	脳神経外科	7,200,000	補 委	文部科学省
平成25年度臨床研究中核病院整備事業補助金(補正予算)	實金清博	脳神経外科	80,000,000	補 委	北海道

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
平成26年度臨床研究中核病院整備事業補助金	實金清博	脳神経外科	210,000,000	補 委	北海道
高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究	生駒一憲	リハビリテーション科	600,000	補 委	厚生労働省
脳機能イメージングによるミラーセラピーのメカニズム解析	生駒一憲	リハビリテーション科	910,000	補 委	日本学術振興会
脳の適応を誘導する人・機械・相互適応技術の開拓	生駒一憲	リハビリテーション科	1,300,000	補 委	日本学術振興会
異常胎児心拍パターンと胎児-母体輸血症候群の関係	水上尚典	産科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
周産期心筋症ハイリスク群同定を目指した臨床的有用性の高いリスク因子抽出の研究	山田崇弘	産科	1,430,000	補 委	日本学術振興会
子宮体癌における発癌microRNAとその標的分子の同定	渡利 英道	婦人科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
婦人科悪性腫瘍の形質に与えるRNA結合蛋白質ZFP36の役割解明	保坂 昌芳	婦人科	910,000	補 委	日本学術振興会
がんに対する正しい知識・態度・意識の涵養を目指す 小中学生向けがん教育教材の開発	シャロン・ハンリー	婦人科	6,370,000	補 委	日本学術振興会
早期子宮頸がんに対する機能温存低侵襲手術の確立に関する研究	櫻木 範明	婦人科	1,000,000	補 委	厚生労働省
難治性神経芽腫に対するIL2,CSF併用ch14.18免疫療法の国内臨床開発	井口晶裕	小児科	300,000	補 委	厚生労働省
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立	井口晶裕	小児科	1,080,000	補 委	厚生労働省
言語発達障害時訓練支援に向けた脳磁図による言語発達評価	白石秀明	小児科	1,820,000	補 委	日本学術振興会
新規医薬品・医療機器等の創出、難治性疾患の治療法の開発および最適な治療法の確立	白石秀明	小児科	5,700,000	補 委	厚生労働省
希少難治性てんかんのレジストリ構築による総合的研究	白石秀明	小児科	400,000	補 委	厚生労働省
治験の実施に関する研究〔5ALA・SFC〕	白石秀明	小児科	500,000	補 委	日本医師会
分子生物学的研究・大規模臨床研究・統計解析の集約によるインフルエンザ治療の再評価	石黒信久	小児科(感染制御部)	1,300,000	補 委	厚生労働省
自然災害時を含めた感染症サーベイランスの強化・向上に関する研究	石黒信久	小児科(感染制御部)	500,000	補 委	厚生労働省

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
超軟質精密心臓レプリカの作成による心臓外科手術トレーニングと個別化医療の確立に向けた研究	武田充人	小児科	400,000	補	厚生労働省
				委	
0-17水分子・酸素分子MRIによる定量的脳血流・酸素代謝イメージリングの開発	工藤與亮	放射線診断科	5,590,000	補	日本学術振興会
				委	
321列MDCTによる包括的冠動脈形態および機能的狭窄度評価の確立	真鍋徳子	放射線診断科	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	
デジタルファントムによる超音波画像診断トレーニングシステム構築のための基礎的検討	作原祐介	放射線診断科	2,470,000	補	日本学術振興会
				委	
新しいNBCA塞栓術”balloom閉塞下NBCA塞栓術”の開発	阿保大介	放射線診断科	1,170,000	補	日本学術振興会
				委	
乳癌のコンパニオン診断に向けた3T-MRIのマルチパラメトリック解析モデルの開発	加藤扶美	放射線診断科	1,950,000	補	日本学術振興会
				委	
MRIを用いた頭頸部腫瘍における機能情報の非侵襲的画像化に関する研究	藤間憲幸	放射線診断科	650,000	補	日本学術振興会
				委	
待ち伏せ照射の高精度化を目的とした体内呼吸運動に基づく呼吸位相モニタの開発	宮本 直樹	放射線治療科	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
患者にやさしい最先端医療技術を核としたヘルス・イノベーションプロジェクト(地域イノベーション戦略支援プログラム「北大リサーチ&ビジネスパーク」)	白土博樹	放射線医学分野	21,974,000	補	文部科学省
				委	
がんプロフェッショナル養成基盤推進プラン「北海道がん医療を担う医療人養成プログラム」	白土博樹	放射線医学分野	34,738,000	補	文部科学省
				委	
橋渡し研究_オール北海道先進医学・医療拠点形成	白土博樹	放射線医学分野	737,197,299	補	文部科学省
				委	
2軸X線を用いた4D-CBCTの撮像方法による相互作用放射線治療の試み	清水伸一	放射線医学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
スポットスキヤニング法による頭頸部癌に対する強度変調陽子線治療計画の開発	土屋和彦	放射線治療科	780,000	補	日本学術振興会
				委	
金ナノコロイド製剤を用いた難治性癌分子追跡陽子線治療法の開発	橋本孝之	放射線医学分野	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
新しい”待ち伏せ”照射法の開発～複数箇所を狙い撃つ～	加藤徳雄	放射線治療科	780,000	補	日本学術振興会
				委	
分子生物学的手法を用いたテーラーメイド高精度放射線治療の実現に向けた研究	木下留美子	放射線治療科	650,000	補	日本学術振興会
				委	
分子イメージングを用いた原発性肺癌に対する高精度放射線治療の研究	井上哲也	放射線治療科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	
低酸素癌細胞に対する放射線治療～生物学的に最適な線量投与方法の確立～	安田耕一	放射線医学分野	910,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
				補 委	
炭素-11C標識メチオニンPETによる脳腫瘍診断	玉木 長良	核医学分野	59,998,000	補 委	文部科学省
未来創薬・医療イノベーション拠点形成	玉木 長良	核医学分野	202,337,617	補 委	厚生労働省
炭素11標識メチオニンによるPET診断	玉木 長良	核医学分野	59,998,000	補 委	厚生労働省
脳内セロトニントランスポーター機能異常と頭部外傷後の高次脳機能障害	服部 直也	核医学分野	1,560,000	補 委	日本学術振興会
分子イメージング手法を用いた2型糖尿病の病態機序の解明	真鍋 治	核医学分野	2,080,000	補 委	日本学術振興会
上腕動脈血管機能計測による動脈硬化症早期診断のための生理的機能診断システム構築	吉永 恵一郎	核医学分野	910,000	補 委	日本学術振興会
癌に対する線量増加放射線治療の理論確立:FMISO-PETを用いた再酸素化の証明	岡本 祥三	核医学分野	2,340,000	補 委	日本学術振興会
α TCP複合化レジンにBMP含有ナノハイドロオキシアパタイト/コラーゲンゲルをハイブリッドさせる垂直歯根破折の再生療法	菅谷 勉	歯周・歯内	1,300,000	補 委	日本学術振興会
歯科治療恐怖症患者における音楽鎮静の効果 -自律神経活動の面からの検討-	下地伸司	歯周・歯内	1,820,000	補 委	日本学術振興会
新規開発自律神経活動モニターシステムを用いた安全・安心な高齢者歯科治療の確立	下地伸司	歯周・歯内	1,339,000	補 委	日本学術振興会
炭酸カルシウム複合化レジンとBMP-2含浸アテロコラーゲンをを用いた骨増生法の開発	中塚 愛	歯周・歯内	1,690,000	補 委	日本学術振興会
ナノカーボンコーティングを用いた新規歯周病治療法	宮治裕史	歯周・歯内	2,080,000	補 委	日本学術振興会
空間的ドラッグデリバリーシステムによる成長因子複合移植法の開発	齋藤恵美子	歯周・歯内	2,080,000	補 委	日本学術振興会
多孔質体を形成するエマルジョン骨ペーストの歯周病治療への応用	加藤昭人	歯周・歯内	1,040,000	補 委	日本学術振興会
FGF徐放性超気孔性 β -TCPと培養細胞シートを用いた歯周組織再生療法の開発	竹生寛恵	歯周・歯内	2,210,000	補 委	日本学術振興会
睡眠時無呼吸症候群と睡眠時ブラキシズムの関連性解明への包括的アプローチ	山口 泰彦	冠橋義歯補綴科	2,990,000	補 委	日本学術振興会
顎顔面筋の抗疲労性に関する研究	有馬太郎	冠橋義歯補綴科	3,510,000	補 委	日本学術振興会
睡眠時ブラキシズム診断における問診・臨床診査の信頼性と診断精度向上の検討	谷内田渉	冠橋義歯補綴科	1,170,000	補 委	日本学術振興会

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
超微小で長時間の歯のくいしばりが与える咀嚼筋への悪影響	大畑 昇	冠橋義歯補綴科	650,000	補	日本学術振興会
				委	
自己防御システム誘導型の新規材料の開発	佐野英彦	歯学研究科	7,020,000	補	日本学術振興会
		歯科保存学教室		委	
バイオガラスによる脱灰象牙質の再石灰化を目指す試み	星加修平	歯学研究科	2,340,000	補	日本学術振興会
		歯科保存学教室		委	
バイオアクティブガラスのう蝕抑制能を各種イオンと中和作用の両面から解明する	角田晋一	歯学研究科	1,560,000	補	日本学術振興会
		歯科保存学教室		委	
歯科材料の微小接着強さ試験に対する信頼性データ分析の導入	池田考績	歯学研究科	780,000	補	日本学術振興会
		歯科保存学教室		委	
マイクロナノ構造を有する薄膜を用いた新たなインプラント周囲炎治療法の開発	横山敦郎	歯学研究科	1,040,000	補	日本学術振興会
		口腔機能補綴学教室		委	
ナノ物質を用いたハイブリット型口腔領域用生体材料の創製と安全性の検討	横山敦郎	歯学研究科	5,070,000	補	日本学術振興会
		口腔機能補綴学教室		委	
咬合および咀嚼機能と全身姿勢の関連性を解明するための総合的解析	坂口 究	歯学研究科	650,000	補	日本学術振興会
		口腔機能補綴学教室		委	
機能性ペプチドを固定化したカーボンナノ物質の歯槽骨再生への応用	平田 恵理	歯学研究科	1,040,000	補	日本学術振興会
		口腔機能補綴学教室		委	
最適化手法を用いた骨質評価法とインプラント形状の選択法の確立	高山 芳幸	北海道大学病院	780,000	補	日本学術振興会
		義歯補綴科		委	
オッセオインデグレーション阻害因子の解明と臨床応用への展開	堀内留美	北海道大学病院	910,000	補	日本学術振興会
		義歯補綴科		委	
高機能化フラレンを用いた新たな歯科用インプラントの開発	平田 恵理	北海道大学病院	400,000	補	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター
		義歯補綴科		委	
糖尿病患者における機械的刺激に対する微小血管応答性の変化とその要因	飯田順一郎	矯正歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
				委	
糖尿病高血糖により生じる破壊的歯槽骨吸収を抑制する力学条件の解明	佐藤 嘉晃	矯正歯科	910,000	補	日本学術振興会
				委	
ナノコンポジット構造を持ち抗菌活性を有する歯科矯正用透明ワイヤーの開発	山方 秀一	矯正歯科	1,170,000	補	日本学術振興会
				委	
新素材を矯正歯科臨床に応用するための研究 ーアクチュエーター(人工筋肉)の応用ー	山本 隆昭	矯正歯科	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
不正咬合自然発症マウスを用いた頭蓋顔面発育異常のメカニズムの解明	塚本 祐理	矯正歯科	910,000	補	日本学術振興会
				委	
頭蓋顔面形態異常におけるゲノムワイドな遺伝的関連解析	斉藤 文男	矯正歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
鼻上顎複合体の劣成長の要因に対する基礎的研究	高橋 邦彰	矯正歯科	10,400,000	補	日本学術振興会
				委	
幹細胞を用いた顎骨再生に関する基礎的研究	福島 久夢	矯正歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
				委	
乳歯歯髄由来幹細胞における未分化維持機構の解明	芝田 健二郎	矯正歯科	1,170,000	補	日本学術振興会
				委	
『低酸素遺伝子応答分子イメージングに基づく新しい口腔癌治療戦略』	北川 善政	口腔内科	4,810,000	補	日本学術振興会
				委	
『唾液中の細胞を標的としたフローサイトメリーによる新しい口腔内科診断戦略』	北川 善政	口腔内科	2,470,000	補	日本学術振興会
				委	
『交感神経活動が咀嚼筋の痛み、分化、機能および神経線維分布に与える影響』	佐藤 淳	口腔内科	1,560,000	補	日本学術振興会
				委	
PTHrP生産口腔腫瘍の微小環境における間質細胞の変化は何に基づいているのか?	佐藤千晴	口腔内科	1,950,000	補	日本学術振興会
				委	
『BRONJに対する多血小板フィブリンによる新たな治療戦略の確立』	浅香卓哉	口腔内科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	
『口腔癌における低酸素非依存的代謝活性亢進機構の解明』	宮腰昌明	口腔内科	1,170,000	補	日本学術振興会
				委	
『口腔癌における腫瘍血管内皮細胞の多様性解明と新規分子標的薬への応用』	大賀則孝	口腔内科	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	
『口腔癌におけるDN変異p53の個別化医療のバイオマーカーとしての有用性』	吉川 和人	口腔内科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	
口腔内扁平上皮癌に対するMR顕微鏡の開発	箕輪 和行	歯学研究科 (歯科放射線科)	910,000	補	日本学術振興会
				委	
びまん性硬化性下顎骨髄炎の診断と治療法に関する研究	山崎 裕	高齢者歯科	1,560,000	補	日本学術振興会
				委	
安全な高齢者歯科治療法の確立のための生体情報モニタリングシステムの応用に関する研究	柏崎 晴彦	高齢者歯科	520,000	補	日本学術振興会
				委	
腫瘍血管内皮細胞の異常性と腫瘍の低酸素環境に関する研究	近藤 美弥子	高齢者歯科	1,300,000	補	日本学術振興会
				委	
適切な高齢者の口腔管理に関する研究	阿部 貴恵	高齢者歯科	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	
間脳下垂体機能障害に関する長期予後調査研究	清水 力	検査・輸血部	400,000	補	日本医療研究開発機構
				委	
低侵襲化をめざした口唇口蓋裂治療体系の開発と多施設比較による有効性の検討	三古谷 忠	高次口腔医療センター顎口腔機能治療部門	1,690,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 18

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元	
口腔がんの発生にかかわるRNA結合タンパクの分解制御機構解明	石川 誠	高次口腔医療センター 口腔インプラント部門	1,430,000	補	日本学術振興会
				委	
難治性の咬合違和感と歯痛の発現に日中の咬みしめに伴う感覚閾値の変化は関連するか？	岡田和樹	高次口腔医療センター 顎関節治療部門	3,250,000	補	日本学術振興会
				委	
滑膜肉腫幹細胞におけるSWI/SNF複合体の役割の解析	木村 太一	臨床研究開発センター	350,000	補	公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター
				委	
マグネシウム投与によるシスプラチン起因性腎障害の予防効果およびその機序の解明	齊藤佳敬	薬剤部	500,000	補	日本学術振興会
				委	
抗精神病薬クロザピンの副作用発現助長因子の解明を目的とした探索	石川修平	薬剤部	500,000	補	日本学術振興会
				委	
妊娠期を通した新規抗てんかん薬の胎盤輸送に関する研究	古堅彩子	薬剤部	600,000	補	日本学術振興会
				委	

小計 6

計 258

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 北海道大学病院で実施される臨床研究が「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」に適合して運用されるために「北海道大学病院における臨床研究の取扱いに関する指針」を整備し、臨床研究の分類と担当する委員会、審査に関する手順を定めている。手順書では総則、総長の責務等、病院長の責務等、自主臨床研究審査委員会の責務等、自主臨床研究責任者の責務等、自主臨床研究事務局、個人情報等、研究に係る試料及び情報等の保管の8章72条の手順を規定している。 研究責任者は、該当する審査委員会に審査を受けるための申請を行うこととし、研究者がいずれの審査を受けるべきか判断に苦慮する場合は、本院自主臨床研究委員会事務局へ問い合わせることとなっている。	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 7 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反マネジメント内規」及び「北海道大学病院における臨床研究に係る利益相反ポリシー」を整備し、本院において実施する臨床研究に係る利益相反の適切な管理、審査及び指導等について必要な事項を定めている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年1回
・ 研修の主な内容 2014年6月27日 17:30~19:00「臨床研究に関する研修会」として実施。 演題：「信頼される研究者であるために—これだけは知っておきたい研究倫理」 講師： 国立循環器病研究センター 研究開発基盤センター 先進医療・治験推進部 部長 山本晴子 先生 内容：臨床研究の倫理の基礎的な内容から、実際の研究不正事例の紹介など	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

(医科)

◎北海道大学病院での研修

○1年目

・必修科目(9ヶ月)

内科で6ヶ月の研修:内科Ⅰ(肺癌,非癌,循環器・糖尿病),内科Ⅱ(腎臓,膠原病,糖尿病・内分泌),消化器内科,循環器内科,神経内科,血液内科,腫瘍内科,リハビリテーション科から選択

救急で3ヶ月の研修:救急科3ヶ月,又は救急科2ヶ月及び麻酔科1ヶ月から選択

・選択必修科目(3ヶ月)

外科(消化器外科Ⅰ,消化器外科Ⅱ,循環器・呼吸器外科,整形外科,泌尿器科,形成外科,スポーツ医学診療科,眼科,耳鼻咽喉科,皮膚科,脳神経外科,乳腺外科),麻酔科,精神科神経科,小児科,産婦人科から2診療科以上,1科最低1ヶ月以上。本人の希望により同一診療科を連続して3ヶ月研修した場合には,残りの1科1ヶ月以上を2年目研修時に必ず履修する。

○2年目

・必修科目

地域医療:1ヶ月以上,3ヶ月以下

・自由選択

必修科目,選択必修科目の診療科に加え,放射線科(身体,神経,IVR,治療),核医学診断科,病理部を含めた全診療科選択可能。

◎たすきがけ協力病院での研修(1年間)

○1年目

・必修科目(9ヶ月) 内科6ヶ月,救急3ヶ月

・選択必修科目(3ヶ月) 研修病院の研修内容に準ずる

○2年目

・必修科目(地域医療研修1ヶ月)を含み,研修病院の研修内容に準ずる

(歯科)

◎単独型研修

保存・補綴・口腔外科・病棟・歯科放射線・歯科麻酔科・予防・矯正・小児歯科などのローテーション研修並びに病棟研修を行う。また,研修協力施設にて地域歯科保健活動や訪問歯科医療についても研修する。

◎複合型研修

ア 管理型臨床研修施設での研修

協力型研修施設では研修できない内容(病棟,歯科麻酔科など)を中心に行う。また,研修協力施設にて地域歯科保健活動や訪問歯科医療についても研修する。研修項目として,複合型では,医療面接,総合診療計画,救急処置,医療安全・感染予防,経過評価管理,予防・治療技術を主に研修する。

イ 協力型臨床研修施設での研修

高頻度に遭遇する歯科治療を反復研修する。また,医療管理や地域医療についても研修する。研修項目として,予防・治療基本技術,応急処置,高頻度治療,医療管理・地域医療を主に研修する。

2 研修の実績

研修医の人数	88人
--------	-----

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
平野 聡	内科Ⅰ 内科Ⅱ 消化器内科 循環器内科 血液内科 腫瘍内科 消化器外科Ⅰ 消化器外科Ⅱ 循環器・呼吸器外科 整形外科 泌尿器科 麻酔科 形成外科 スポーツ医学診療科 乳腺外科 救急科 神経内科 眼科 耳鼻咽喉科 皮膚科 精神科神経科 脳神経外科 リハビリテーション科 産科 婦人科 小児科 放射線治療科 放射線診断科 核医学診断科 病理診断科	教授	27年	プログラム責任者
井上 哲	歯科	教授	28年	プログラム責任者

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 別紙の通り
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 別紙のとおり
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
<ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況

別紙

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
1	「がん相談支援センターを上手に利用しましょう！ ～がん患者さんの退院調整の実際と経済的相談について～」 「お金に関する制度を学ぼう ～高額療養費制度・特定疾患・介護保険の制度改正を中心に～」	がん診療連携拠点病院機能強化事業の一環として、がん診療に携わる医師・看護師等を対象に毎月9回、研修を行い腫瘍に係る基本的な知識を習得	年1回	36名
2	医事課事務職員研修	医療安全管理(報告体制、重大事故発生時の対応)	年1回	26名
3	初任職員(医療職)オリエンテーション	リスクマネジメントを理解する	年1回	147名
4	『医療安全に関する一般的知識』『医療政策上の義務化』『医療訴訟・紛争予防』『北海道大学病院の医療安全管理体制』『院内法制度』『リスクマネージャー連絡会議の役割』『リスクマネージャーの役割・業務』	1. 新任リスクマネージャーとして役割発揮に必要な知識の修得 2. 北海道大学病院の医療安全管理体制の理解	年1回	10名
5	人工呼吸器安全管理講習会(基礎課程)『人工呼吸器パトロール点検結果』『人工呼吸器の管理の基本』『呼吸理学療法』『人工呼吸器装着患者の看護』『人工呼吸器状況別トラブル対策』『人工呼吸器保守点検』	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上するとともに現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成	年6回	延べ99名
6	「2013年度のインシデントを振り返って」 「2013年度の感染症とその対策を振り返って」	1. インシデントを振り返り、医療安全に関する理解を深める 2. 感染制御のための対策を理解する	年3回	延べ1284名
7	「採血・穿刺時の神経損傷予防」	採血・穿刺時の神経損傷の理解を深め、防止に向けた対応を理解する	年1回	98名
8	医療機器に関する研修 「輸液・シリンジポンプ編」・『輸液・シリンジポンプの操作を習熟』	医療機器の操作に関する知識や技術を習熟し、部署内で効果的な指導ができる	年1回	19名
9	院内BLS/AED講習会 1. 心肺蘇生 2. AEDを用いた蘇生シミュレーション	一次救命処置ができる	年4回	延べ43名
10	クレーム暴力対応、暴言暴力組織対応	医療安全の対応について理解を深める	年4回	延べ221名
11	「病院における子ども虐待の発見と対応のポイント」	医療安全の対応について理解を深める	年1回	119名
12	危険薬の取扱い 1. 医薬品に関するインシデントについて 2. 危険薬について	医薬品に関する知識を習熟し、効果的な指導が展開できる	年2回	延べ50名
13	1. 医療プロフェッショナリズム 2. これからのチーム医療 3. インフォームド・コンセント	プロフェッショナル集団の一員として、職種間連携の必要性を理解し、医療者として責任のある行動がとれる	年2回	延べ282名
14	「患者の自殺と医療従事者の対応策ー法的責任から考えるー」	医療安全の対応について理解を深める	年1回	191名
15	「みんなで取り組む感染対策と医療安全」	1. 医療安全に関する理解を深める 2. 感染制御のための対策を理解する	年1回	568名
16	「アナタの常識はワタシの常識ではない!!一報道事例から学ぶ「医薬品使用時の安全管理」ー」	医療安全の対応について理解を深める	年1回	292名
17	人工呼吸器安全管理講習会Ⅱ認定過程	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上するとともに現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する	年1回	8名
18	医療安全管理部研究発表会	医療安全管理部で行われた研究を理解してもらう	年1回	172名
19	「子どもの虐待防止」	医療安全の対応について理解を深める	年1回	113名
20	人工呼吸器安全管理講習会認定課程試験(筆記・実技)	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上するとともに現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する	年1回	9名
21	人工呼吸器安全管理認定者更新者予備講習	人工呼吸器が稼働している部署の管理水準を向上するとともに現場の人工呼吸器管理に関する指導的人材を育成する	年1回	1名
22	【講演会】「歯科のインシデントの紹介」	医療安全の対応について理解を深める	年1回	189名
23	医薬品に関する講習会「インシデント事例からの学び」	医薬品に関する知識を深め、各部署で効果的な指導が展開できる	年1回	90名
24	人工呼吸器認定者更新試験(筆記・実技)	人工呼吸器認定者の質を保証するを図る	年1回	4名
25	「悪疫質・サルコペニアにおける栄養管理」	最新の情報を修得し、チームメンバーの資質向上を図る	年1回	136名
26	【講演】「神経性やせ症の診断と治療」	最新の情報を修得し、メンバーの脂質向上を図る	年1回	59名
27	「感染制御の基本と北大病院の感染管理」	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	27名
28	感染症セミナー 1. アンチバイオグラムの見方 2. 抗菌剤の基礎知識 演習 1. 感染防御具の脱着方法 2. 手洗いの実際とその検証 3. 安全装置付器材による採血と静脈留置の実際	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	50名
29	「院内感染予防」 「病院事務職員の感染対策について」	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	177名
30	「感染症伝播を防止するための清掃の重要性と正しい清掃」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年4回	延べ142名
31	「食中毒防止について」 「感染防止の基本は手洗いから」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	98名
32	「2013年度のインシデントを振り返って」 「2013年度の感染症とその対策を振り返って」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年3回	延べ1323名
33	「知っていれば怖くないHIV感染症 ～これだけは知っておきたいHIV/AIDSの基礎知識～」 「針刺し事故時に慌てないために」 「見落とし注意！HIV感染症」 「HIV感染判明時の対応」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年2回	延べ158名
34	「感染管理マニュアルの見方」 「感染管理上、特に注意が必要な対応策」 (スタンダードプリコーション、MRSAの対応、インフルエンザ・感染性胃腸炎時の対応など)	職場復帰をする看護職員に対して、必要な基礎知識を付与	年4回	延べ8名
35	「インフルエンザ対策！！ ～今年の冬を乗りきるために～」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	7名
36	「手指衛生と職業感染」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	15名
37	「みんなで取り組む感染対策と医療安全」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	568名
38	「感染性胃腸炎、インフルエンザシーズンに備えて」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	291名
39	「メンタル・セクシャルヘルス」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年3回	延べ141名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
40	「多剤耐性アシネトバクター 集団発生事例で学んだこと」	職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	222名
41	「静脈注射と感染管理」	看護職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	35名
42	「感染対策の実際と最新情報」	職場復帰をする看護職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	27名
43	「大動脈弁狭窄の診療における弁-肺動脈インピーダンスの意義:左室肥大との関連について」	検査技術、研究成果発表に関する知識の向上	年1回	41名
44	「スペックルトラッキング法を用いた長軸方向心筋仕事量算出の試み:高血圧性心疾患と肥大型心筋症への応用」 「組織ドブラ法による左室弛緩能と充満圧の推定に及ぼす左室収縮機能と肥大の影響」	検査技術、研究成果発表に関する知識の向上	年1回	40名
45	オリエンテーション、品質マネジメントシステム、院内ネットワーク、検査システム、検体検査オーダの説明、患者サービス・庶務・広報MGT、精度管理MGT、機器・消耗品MGT、医療安全・環境MGT、教育・研究MGT、感染制御、栄養サポートチーム(NST)、糖尿病ケアサポートチーム、各検査室の概要説明	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	8名
46	「平成25年度精度管理報告会」	外部技能試験(コントロールサーベイ)の結果報告	年1回	55名
47	「大腸癌術前精査における体外式超音波検査の肝転移、進行度診断能の検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	41名
48	「末梢血幹細胞採取におけるCOBE SpectraとSpectra Optiaの比較検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	40名
49	「全自動化学発光免疫測定装置CL-JACK専用機とデタミナーCL IL-2Rについて」 協和メディックス(株)	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	34名
50	「肝・脾エラストグラフィにおける検者間再現性の検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	49名
51	「新興感染症起因菌パラクラミアが共生するアメーバの院内環境からの株化」 「繊毛虫共培養下で大腸菌から産生誘導されるクオラムセンシングシグナル分子AI-2について」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	43名
52	「AABRを用いた新生児聴力検査について」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	37名
53	「臨床検査システムMELAS-iの機能紹介と標準化への取り組み」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	32名
54	「Rivaroxabanの血中モニタリングにおけるPTおよびAPTTの試薬間差の検討」 「フォロー四徴症術後遠隔期の高度肺動脈弁逆流の1例」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	49名
55	「針刺し・切創及び皮膚・粘膜曝露発生時の対応」 「インシデント発生時の対応」	医療安全・災害に関する安全教育	年1回	58名
56	「コレステロールと心臓病～あなたの血管年齢はいくつ？～」 「血管年齢から見る動脈硬化～血圧脈波検査ってなんだろう？」 「コレステロールからひも解く動脈硬化と血管年齢」	臨床検査医学、臨床検査技師の役割等の啓発	年1回	125名
57	「ミコフェノール酸血中濃度測定に関する免疫学的測定法とHPLC法との比較検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	32名
58	「臨床試験の開発フェーズと臨床検査」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	42名
59	「新規経口抗凝固薬rivaroxabanの推定濃度式の検討」 「潰瘍性大腸炎治療中にサイトメガロウイルス腸炎を合併した1症例」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	36名
60	「S字状心室中隔に伴う流出路狭窄による僧帽弁逆流と弁穿孔が溶血性貧血の原因となった僧帽弁形成術後の1例」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	38名
61	「溶血時の血清カリウムの動態についての検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	33名
62	「血清カルシウム調節因子の季節変動」 「メトレキサート測定試薬「ナノピアeTDMメトレキサートの基礎的検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	29名
63	「呼吸機能検査における健常成人の日差変動」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	38名
64	「長期保存された患者測定データの活用」 「自動分析装置JCA-BM8030によるシグナスオートCREの基礎的検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	38名
65	「抗好中球細胞質抗体(MPO-ANCA, PR3-ANCA)測定試薬の検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	38名
66	「尿沈渣中に脂質成分を認めた尿の高分解能質量分析計による脂質成分分析」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	16名
67	「凝固の基礎と最近のトピックス」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	34名
68	「2型糖尿病患者における神経伝導速度とmaxIMT、ABIの関係性」 「北海道大学病院における外来患者CGM検査の検査・輸血部実施移行への取り組み」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	40名
69	「当院における血液製剤使用入力時の取り組みについて」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	41名
70	「The Enhanced Liver Fibrosis (ELF) score: Normal values, influence factors and proposed cut-off values」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	48名
71	「大量γグロブリン療法により交差試験不適合となった1例」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	40名
72	「WT1mRNA発現量によるAMLの病態解析」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	34名
73	「発色合成基質法を用いた新規Xa阻害薬ApixabanのXa阻害活性の測定」 「血小板・単球におけるCD36分子発現の多様性と遺伝子変異の関連」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	28名
74	「可溶性ローヤルゼリー蛋白質(sRJP)のメラニン合成抑制作用について」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	38名
75	「インターフェロンγ遊離試験(IGRA)による結核感染診断」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	37名
76	「Mwdian neuropathy at the wrist as an early manifestation of diabetic neuropathy」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	50名
77	「NST介入患者におけるCu及びZnと栄養学的指標の関連性」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	43名
78	平成26年度国公立大学病院医療技術関係職員研修報告(臨床検査技術者)	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	51名
79	InBody勉強会	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	48名
80	「二次元キャリアマップ(2DCM)を用いたMRSAの院内伝播スクリーニングの有用性の検討」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	39名
81	「A fluorescence in situ hybridization study of TEL-AML1 fusion gene in B-cell acute lymphoblastic leukemia(1984-2001)」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	47名
82	「造影超音波検査を施行した悪性リンパ腫肝浸潤の1症例」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	43名
83	「A prospective survey of idiopathic interstitial pneumonias in a web registry in Japan」	検査技術に関する専門知識の向上	年1回	51名
84	縫合結紮を動物の組織を用いておこなうまた、ドライボックスを用いて内視鏡下に縫合結紮のトレーニングをおこなう内視鏡外科のシュミレーターを用いて手術手技の理解する	縫合手技のレベルアップ、内視鏡外科手技の向上	年2回	延べ45名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
85	大動物を用いた内視鏡外科手術のトレーニングをおこなう豚に麻酔をかけ人間と同じ腹腔鏡機器を用いて実際の手術に見立てて手技の確立を目標とする	縫合手技のレベルアップ、内視鏡外科手技の向上	年3回	延べ30名
86	医局内の経営、目標管理、労務について	職員の安全、衛生、管理能力向上	年1回	10名
87	〔講義〕 ・労働災害防止対策 ・心身の管理	新任職員に対して、必要な基礎知識を付与	年1回	135名
88	〔講義〕 ・患者相談窓口業務と期待される役割 ・相談担当者に求められる能力	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	6名
89	〔講義と演習〕 ・接遇(コミュニケーションスキル) ・患者からの聞き取りと説明技法	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	4名
90	食中毒防止対策	大量調理管理施設に働く職員の健康管理と食中毒予防対策を学ぶ	年1回	98名
91	メディエーションスキル	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	4名
92	クレーム・マネジメント (クレーム対応の技法)	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	208名
93	患者相談窓口業務と期待される役割	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	4名
94	患者からの聞き取りと説明技法	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力の向上	年1回	4名
95	職場で生き活きと仕事をするために	職場におけるコミュニケーション技術を学び、ハラスメントや抑うつ職員の発生を防止	年3回	71名
96	・労働安全衛生法 ・職業感染予防の取組み	高度で各専門領域に特化した知識と技術に対する教育を支援	年1回	22名
97	〔講義・演習〕・病院が求める環境衛生と職員の健康・手洗い実習	事務所と病院の清掃の違いを知り、適切な清掃に関する知識を身につける	年2回	延べ78名
98	医療廃棄物の回収・運搬処理・放射線医薬品使用後の環境消毒の実際・抗癌剤等ミキシング作業に伴う医療廃棄物の取り扱い・職員の暴露防止策、感染症拡散防止策の実施	医療廃棄物を直して、環境汚染防止対策・防疫の実際を学ぶ	年1回	5名
99	自分で出来るストレッチの方法・実技・コルセットの選び方・電気刺激治療器の体験	腰痛予防対策を学ぶ	年1回	28名
100	接遇の基本	北海道大学病院職員として接遇に関する知識を知り、日常の業務に活用できる	年2回	延べ214名
101	病院安全・保安組織体制について	患者相談担当者が患者相談窓口機能を理解し、コミュニケーション技術を習熟することにより、患者相談に関する実践能力が向上する	年1回	1名
102	護身術とはどのようなものか(知識・技術)	自分や他人の生命、身体を守るための知識・技術・方法を学ぶ	年1回	30名
103	・接遇・コミュニケーションに関する誘導方法 ・上手な話し方・聞き方を習得する	各診療科・部署に求められる「接遇・コミュニケーション技術」について指導できるようになる	年1回	11名
104	・感染伝播防止及び、暴露防止の準備物品の扱い ・吐しゃ物の片づけ方法	院内における感染性胃腸炎の感染伝播を防止するための技術を習得する	年3回	延べ39名
105	【看護師】看護部初任職員研修	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護業務について理解する	年2回	延べ100名
106	【看護師】看護助手研修(初任職員研修)	看護部理念・看護者の責務・組織運営・人材育成・看護助手業務について理解する	年2回	延べ10名
107	【看護師】看護部初任職員研修(メンタルヘルス研修・中央部門研修)	自部署と関連する中央部門の役割および場を理解するメンタルヘルスサポートを実践できるための知識を得る	年1回	90名
108	【看護師】医療情報	医療情報システムについて理解する	年3回	延べ120名
109	【看護師】病院初任職員研修	本院職員としての心構えと必要な知識を身につけ、医療職員としての責任ある行動がとれる	年2回	延べ120名
110	【看護師】新卒者看護技術研修(採血・口腔ケア)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
111	【看護師】臨地実習担当者研修	基礎教育の理解を深め、臨地実習担当者の役割がわかる	年1回	50名
112	【看護師】新卒者看護技術研修(注射・ホップ)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
113	【看護師】看護研究Ⅱ	看護研究のプロセスを学び、研究計画書が立案できる	年1回	20名
114	【看護師】リーダー研修Ⅰ	看護チームにおけるリーダーの役割を理解し、リーダーシップを発揮できる	年2回	延べ80名
115	【看護師】リーダー研修Ⅱ	問題解決能力を高め、チーム医療の中でリーダーシップを発揮できる	年3回	延べ40名
116	【看護師】看護助手研修(1回目)	看護チームにおける看護助手の役割を理解し、日常業務について考える	年1回	延べ30名
117	【看護師】看護必要度研修、新卒者看護技術研修(皮膚排泄ケア)	看護必要度について理解する看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	延べ90名
118	【看護師】再就職者、既卒就職者研修	本院の患者参加型看護・看護記録を理解する	年1回	25名
119	【看護師】看護倫理研修	チーム医療の中で患者の権利の擁護者として看護師の役割を理解し、看護実践を行う能力を高める	年2回	延べ50名
120	【看護師】新卒者看護技術研修(心電図・酸素)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
121	【看護師】2年目看護師研修	看護実践者として、看護過程を展開する能力を高め、看護実践を記録できる力を身につける	年2回	延べ70名
122	【看護師】看護研究Ⅰ	看護研究の基本を学ぶ	年1回	100名
123	【看護師】看護助手研修(2回目)	看護チームにおける看護助手の役割を理解し、日常業務について考える	年1回	30名
124	【看護師】新卒者看護技術研修(膀胱・輸血)	看護技術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
125	【看護師】看護助手研修(3回目)	看護チームにおける看護助手の役割を理解し、日常業務について考える	年1回	30名
126	【看護師】2年目看護師多重課題研修	患者の心身の状況と業務の関連をアセスメントし優先順位を判断できる	年2回	延べ70名
127	【看護師】プリセプター研修	プリセプターシップの概念が理解できる	年2回	延べ140名
128	【看護師】3年目看護師研修	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発を促す	年2回	延べ50名

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名 等	目 的 等		
129	【看護師】看護助手研修(4回目)	看護チームにおける看護助手の役割を理解し、日常業務について考える	年1回	30名
130	【看護師】看護とキャリア研修	チーム医療の中で、看護職としてのキャリアを活かした看護実践ができる	年1回	25名
131	【看護師】新卒者合同研修②、1年目フィジカルアセスメント研修	組織の一員として職種間連携の必要性を理解し、医療職者として責任ある行動について学ぶ専門職業人として、根拠に基づいた予測性のある観察ができる	年1回	90名
132	【看護師】新卒者看護技術研修(心肺・理学)	看護施術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
133	【看護師】新卒者看護技術研修(栄養・ドレーン)	看護施術を安全・安楽に提供できるように、必要な基本的態度、知識、技術を演習で学ぶ	年1回	90名
134	【看護師】家族看護研修	家族看護を学ぶことで、看護実践能力を高める	年2回	延べ50名
135	【看護師】1年目看護師研修	看護専門職者として、自覚と責任ある行動がとれるための自己の課題が見いだせる	年2回	延べ90名
136	【看護師】看護記録研修	部署において「患者参加型看護」を推進するための役割が担える	年1回	40名
137	【看護師】看護必要度研修(指導者)	患者の重症度、看護必要度について適切な評価がおこなえ、部署で指導できる	年1回	70名
138	【看護師】1年目看護師多重課題研修	多重課題に対して優先順位を判断し、行動できる	年1回	90名
139	【看護師】静脈注射エキスパートナース研修	静脈注射エキスパートナースとして、実践能力を高め役割を發揮できる	年1回	30名
140	【看護師】2年目看護師研修(継続)	看護実践者として、看護過程を展開する能力を高め、看護実践を記録できる力をつける	年1回	70名
141	【看護師】3年目看護師研修(継続)	3年目の果たす役割を明確にし、看護に対する自己啓発できる	年2回	延べ50名
142	【看護師】新卒者合同研修③	安全な医療の提供のために、臨床の倫理について考える	年1回	90名
143	【看護師】静脈注射エキスパート認定研修	安全に静脈注射の実践ができるよう知識・技術を獲得し、スタッフに指導ができる	年3回	延べ30名
144	【看護師】看護研究Ⅱ(継続)	看護研究のプロセスを学び、研究計画書が立案できる	年1回	20名
145	【看護師】静脈注射エキスパート更新試験	注射スキルの技術アップを図る	年1回	40名
146	【看護師】職場復帰直前研修	育児休業者が最近の医療・看護の動向を理解し、実践を学ぶことで円滑に職場復帰ができるように支援する	年3回	延べ25名
147	【看護師】がん化学療法看護	がん化学療法看護を学ぶ	年7回	延べ35名
148	【看護師】救急看護	災害看護 基礎、応用等を学ぶ	年7回	延べ106名
149	【看護師】急性重症患者看護	人工呼吸管理の基礎、応用等を学ぶ	年6回	延べ149名
150	【看護師】小児救急看護	こどもの一次救命技術等を学ぶ	年6回	延べ62名
151	【看護師】皮膚・排泄ケア	DESIGN-Rの使い方 基礎編等を学ぶ	年7回	延べ119名

② 業務の管理に関する研修の実施状況

NO	主 な 内 容		日 程	参加人数
	研 修 名	目 的 等		
1	第10回内部監査員勉強会	ISO15189, 品質マネジメントシステムの理解を深める	年1回	56名
2	第1回QMS勉強会	ISO15189, 品質マネジメントシステムの理解を深める	年1回	51名
3	指導者としての、接遇・コミュニケーション技術について	研修を継続的に受講し、各診療科、部署に求められる「接遇・コミュニケーション技術」について指導ができる	年1回	15名
4	発達障害者とは、発達障害者である同僚への接し方、配慮	発達障害について正しく理解し、同僚への偏見をなくし、業務指示・連携が円滑にできる	年1回	15名
5	【看護師】指導看護師を養成するための論理的思考論	課題事例における問題の特定、分析、解決策立案、実施、結果の評価についてシミュレーションができる	年4回	延べ56名
6	【看護師】指導看護師を養成するための基礎教育実践論	講義内容を企画できる	年3回	延べ42名
7	【看護師】指導看護師を養成するためのOJT新人教育論	部署内の新人教育の問題の特定、部署内の新人教育の問題を分析できる	年3回	延べ45名
8	【看護師】指導看護師を養成するためのOJT専門領域論	部署内のOJTの問題の特定ができる	年3回	延べ42名
9	【看護師】看護師長オリエンテーション	看護師長の役割が理解できる	年2回	延べ2名
10	【看護師】新副看護師長オリエンテーション	副看護師長の役割が理解できる	年1回	30名
11	【看護師】副看護師長研修	副看護師長の役割を理解し、看護管理者能力を高める	年1回	80名
12	【看護師】新任看護師長研修	看護師長の役割が理解できる	年3回	延べ2名

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 2. 現状
管理責任者氏名	病院長 寶金 清博
管理担当者氏名	総務課長 医事課長 医療支援課長 薬剤部長

		保管場所	管理方法
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書		各診療科 診療録管理室 総務課	<ul style="list-style-type: none"> ・病歴資料については、診療科毎に作成，保管管理（一診療科一診療録） ・処方せんについては、薬剤部において保管管理 ・エックス線写真については、各診療科において保管管理（なお、平成12年10月1日以降退院する患者に係る入院診療録（看護記録，サマリーを含む）及び外来診療録の一部は、診療録管理室にて保管管理）。 ・病院日誌は総務課にて保管管理。 ・診療録を病院外に持ち出す際の取扱いについては、「北海道大学病院における個人情報管理に関するガイドライン」を定め、個人が特定できる情報については、個人情報保護管理区域外への一切の持出しを禁止し、相当程度に個人の特が困難な情報については、保護管理者への届出を行った上でパスワードロックを用いた媒体でのみ持ち出しを許可している。
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	総務課	名簿，台帳等を担当部門にて保管管理。
	高度の医療の提供の実績	医事課	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課	
	高度の医療の研修の実績	総務課	
	閲覧実績	総務課	
	紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課及び薬剤部	
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療支援課	規程，内規，手順書及びマニュアル等を整備し，必要に応じて議事要旨や資料，名簿，台帳等を担当部門にて保管管理。
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療支援課	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療支援課	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的と	医療支援課	

の号 状及 況 第 九 条 の 二 十 第 一 項	した改善のための方策 の状況	
	専任の医療に係る安全 管理を行う者の配置 状況	医療支援課
	専任の院内感染対策 を行う者の配置状況	医療支援課
	医療に係る安全管理を 行う部門の設置状況	医療支援課
	当該病院内に患者か らの安全管理に係る相 談に適切に応じる体制 の確保状況	医療支援課

		保 管 場 所	管 理 方 法
病院の管理 及び運営に 関する諸記 録	規 則 第 一 条 の 十 一 第 一 項 各 号 及 び 第 九 条 の 二 十 三 第 一 項 第 一 号 に 掲 げ る 体 制 の	院内感染のための指 針の策定状況	規程、内規、手順書及びマニュアル等を 整備し、必要に応じて議事要旨や資料、 名簿、台帳等を担当部門にて保管管理。
		院内感染対策のため の委員会の開催状況	
		従業者に対する院内 感染対策のための研修 の実施状況	
		感染症の発生状況の 報告その他の院内感染 対策の推進を目的とし た改善のための方策の 実施状況	
		医薬品の使用に係る 安全な管理のための責 任者の配置状況	
		従業者に対する医薬 品の安全使用のための 研修の実施状況	
		医薬品の安全使用の ための業務に関する手 順書の作成及び当該手 順書に基づく業務の実 施状況	
		医薬品の安全使用の ために必要となる情報 の収集その他の医薬品 の安全使用を目的とし た改善のための方策の 実施状況	
		医療機器の安全使用 のための責任者の配置 状況	
		従業者に対する医療 機器の安全使用のため の研修の実施状況	

	確保の状況	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医療支援課	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医療支援課	

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	①. 計画	2. 現状
閲覧責任者氏名	総務課長 大石和博, 経営企画課長 入澤秀次	
閲覧担当者氏名	総務係長 山内好子, 分析企画係長 石川裕司	
閲覧の求めに応じる場所	総務課事務室, 経営企画課事務室	
閲覧の手続の概要		
利用者は必要に応じ, 文書により閲覧責任者に閲覧を申し出, 閲覧担当者は閲覧に応じる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 1 1 第 1 項各号及び第 9 条の 2 3 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>I. 北海道大学病院における医療安全管理指針 II. インシデント、医療事故に関する考え方 III. 本院におけるインシデントのレベル分類 IV. 医療安全に関する報告の意義・範囲・方法 V. 医療事故等発生時の対応 VI. 医療安全管理体制 VII. 関連機関への報告・公表等 VIII. 医療に係る安全管理のための職員研修 IX. 患者相談対応 X. 患者・家族に対する当該指針の閲覧</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故等防止対策の検討及び推進に関すること (2) 医療事故等の対応及び原因究明に関すること (3) 医事紛争の対応等に関すること (4) 医療事故等の情報収集及び分析に関すること (5) 医療事故等防止に関する職員の教育・研修に関すること (6) その他医療事故等に関すること</p>	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 1 1 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医療安全に関する講演会「2013年度のインシデントを振り返って」×3回 医療安全に関する講演会「病院における子ども虐待の発見と対応のポイント」 医療安全に関する講演会「採血・穿刺時の神経損傷予防」 医療安全に関する講演会「患者の自殺と医療従事者の対応策—法的責任から考える」 医療安全・感染管理に関する講演会「みんなで取り組む感染対策と医療安全」 医療安全の日講演会「アナタの常識は、ワタシの常識ではない!!—報道事例から学ぶ「医薬品使用時の安全管理」—」 医療安全に関する講演会「医療安全管理部研究発表会」 医療安全に関する講演会「子どもの虐待防止」 医療安全に関する講演会「歯科のインシデント事例の紹介」</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>1. 報告書に伴う問題点の把握方法(各部署、安全管理部門の問題点の認識) インシデント報告に関する分析からフィードバックまでの対応(職員への周知と再発防止)</p> <p>1) 専任リスクマネジャー(GRM)が当該リスクマネジャー(RM)へ事実確認を行い、報告内容の監査・分析を行い、問題事例や有害事象の場合は、当該RMとの検討、患者の影響度、患者への対応状況などを協議し対応している。</p> <p>2) レベル3bの有害事象の場合は、当該部署のRMに当該部署として検討を行った結果と再発防止策について事例報告書として詳細報告を要請し、事例報告書に基づき原因・起因を分析し、病院長に報告している。</p> <p>3) レベル4, 5の有害事象は、GRMが聞き取り・現場検証などの事実調査を行い、当該RM・関係者との事象の検討、患者の影響度、患者への対応などを協議している。GRMが作成した検証資料に基づき、病院長・医療安全管理部長・当該部署の責任者とRMにより原因検討を行い、重篤な事案の場合は医療事故対策特別部会で原因検討の上、病院の見解を明確にしている。</p>	

<p>2. <u>問題点の分析方法（各部署、安全管理部門の問題点の分析方法）</u></p> <p>1) 必要な事例については、専門分野の医員を指名し、WG、院内医療事故検討会を設置し、原因分析・再発防止策を作成する。</p> <p>2) 医療事故等調査・分析専門委員会において、3a以上の報告については月ごとにレベル・過誤の判定と合併症の妥当性の検討を行っている。</p> <p>3) レベル3b以上の報告は、毎週月曜日に、報告内容を分析し、原因と患者への影響度を検討し、医療事故報告制度への報告対象事例の判定を行っている。</p>	
<p>3. <u>改善策の検討方法</u></p> <p>1) 報告の全体的分析は毎月と年間において実施し、発生レベル・報告状況・場面別に集計し、発生場面別や職種別の発生状況について定量的分析を行い「医療安全に関する報告集計」を作成し、各委員会に周知を図っている。また、病院運営会議においても報告し、周知を図っている。</p> <p>2) 各診療科・部署の安全管理を図るために、前年度の当該診療科・部署での報告について年間集計し、当該診療科・部署での優先的課題を分析し、年度前半で、診療科・部署RM等で対策を検討し、年度末に再度、今年度の当該診療科・部署での報告について集計し、優先的課題の評価を実施し、次年度に向けて継続事項を検討している。</p> <p>3) 医薬品・医療機器に関する事象については、関係専門委員会で再発防止策を検討し、システム改善・教育体制などの企画を検討している。</p>	
⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	④ (5名)・無
⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	④ (専従1名・専任4名)・無
⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	④・無
<p>・ 所属職員： 専任（7）名 兼任（1）名</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>(1) 医療事故及びインシデント報告の受理及び分析に関すること</p> <p>(2) リスクマネジメント委員会の運営に関すること</p> <p>(3) リスクマネジャー連絡会議の企画及び運営に関すること</p> <p>(4) 医療安全に関する教育及び研修に関すること</p> <p>(5) 医療現場からの医療事故等の相談に関すること</p> <p>(6) 医療事故等に関する診療録や看護記録等への記載内容の確認及び指導に関すること</p> <p>(7) 医療事故等の発生時における患者又はその家族への対応状況の確認及び必要な指導に関すること</p> <p>(8) 医療事故等に対する原因究明の実施状況確認及び必要な指導に関すること</p> <p>(9) 医療安全に係る連絡調整に関すること</p> <p>(10) その他医療安全対策の推進に関すること</p>	
⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	④・無

(様式第 6)

院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	○・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>当院の北海道大学院内感染指針は以下の項目から成っている。</p> <ol style="list-style-type: none">1 院内感染対策に関する基本的な考え方2 院内感染対策に関する管理組織機構<ol style="list-style-type: none">(1) 院内感染対策委員会(2) 院内感染対策特別部会(3) 感染制御部(4) 感染防止対策チーム(5) 感染対策マネージャ連絡会議3 職員研修に関する基本方針4 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5 アウトブレイクあるいは異常発生時の対応に関する基本方針6 患者等への情報提供と説明に関する基本方針7 その他院内感染対策の推進のために基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 1 2 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染防止対策の検討及び推進・ 院内感染防止の対応及び原因究明・ 院内感染等の情報収集及び分析・ 院内感染防止等に関する職員の教育・研修	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 1 回 (H26年度)
<p>・ 研修の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・ 院内感染対策講演会「本院における院内感染対策」・ 新規感染対策マネージャ講習会「感染対策マネージャの役割」，「感染防止の基礎」・ 研修医院内感染対策研修「感染防御具の脱着方法・手洗いとその検証・安全装置付器材による採血と静脈留置の実際」，「病棟で遭遇する感染症」，「感染症診療の Pit-hole」	

- ・異動後医師研修「北大病院の感染制御について」
- ・専門領域研修会感染管理「スタンダードプリコーション」「感染経路別予防策」
- ・外注調理職員研修「食中毒防止について」「感染防止は手洗いから」

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (・無)
 - ・「感染症のアウトブレイク発生に伴う保健所への報告基準」を制定し、保健所や大学内の報告に係る基準及び方法等について整備済みである。(平成23年6月17日医政指発第1号に基づき、平成23年8月25日病院執行会議において承認)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・感染防止対策チームを設置して、院内感染状況、抗菌薬の適正使用、職員の感染防止策等の実施状況の把握と指導を行っている。
 - ・耐性菌サーベイランス等、感染症法に基づく院内感染症発生状況の迅速な把握と対応を行っている。
 - ・感染防止対策加算1を算定する医療機関として、同じく加算1を算定する医療機関との相互評価及び加算2を算定する医療機関との合同カンファレンスの開催等により道内の医療機関との連携を図っている。
 - ・平成24年4月から、感染制御部専任の医師(医員)1名を新たに配置した。
 - ・感染制御部専任の事務補佐員(非常勤職員)1名を継続して配置し、平成24年7月から、事務職員(常勤職員)1名を配置した。

(様式第 6)

医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	㊦・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 6 回
<ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：(H 2 6 年度)研修医オリエンテーション「処方全般」 開催回数：2回(2014年4月2日、3日)、対象：医師医薬品に関する講習会「危険薬の取扱い」 開催回数：2回(2014年8月20日、27日)、対象：看護師医薬品に関する講習会「インシデント事例からの学び」 開催回数：1回(2015年3月10日)、対象：全職種異動後医師研修「危険性の高い薬剤の取り扱い」 開催回数：1回(2014年6月26日)、対象：医師	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none">手順書の作成 (㊦・無)業務の主な内容： 医薬品安全使用に関する手順書 <ol style="list-style-type: none">医療安全上、注意を要する薬剤リスト<ol style="list-style-type: none">特に安全管理が必要なリスト配合注意・投与ルートで注意を要する注射薬誤認に注意薬剤指示・伝達ルール<ol style="list-style-type: none">指示・伝達ルール口頭指示は原則禁止内服薬に関する管理基準<ol style="list-style-type: none">内服薬管理基準薬剤管理指導業務手順書入院患者の持参薬確認業務手順書誤調剤に対する調剤室対応手順注射薬に関する管理基準<ol style="list-style-type: none">注射業務管理基準注射薬混合調製(ミキシング)手順書危険性の高い薬剤に関する手順書<ol style="list-style-type: none">危険性の高い薬剤の取扱い手順書注射用抗生物質製剤等によるショック等に対する安全対策抗凝固・抗血小板療法施行時における出血性合併症および処置・手術時の対応ビグアナイド系糖尿病薬服薬中のヨード造影剤使用の検査について抗がん薬に関する手順書<ol style="list-style-type: none">院内がん化学療法要項がん化学療法実施運用手順書抗がん薬の投与に関する手順書抗がん薬被爆防止に関するマニュアル院内におけるがん化学療法の安全性に関する取り決め血管外漏出およびアレルギー反応発生時の対応について医療安全情報管理<ol style="list-style-type: none">医療安全性情報管理体制薬剤部における医薬品情報管理マニュアル医薬品管理<ol style="list-style-type: none">病棟における注射剤管理業務手順書病棟における薬剤師業務基準麻薬管理取扱い手順インスリン療法マニュアル	

- (1) インスリン療法マニュアル
- (2) インスリンラインナップ
- (3) 各製剤の使い方
- 10) 医薬品の採用に関する手順書
- 11) 他施設との連携に関する手順書

④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況

- ・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容：
 - ・ 医薬品の情報管理体制として、薬剤部における医薬品情報管理手順を作成し、それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」として、医薬品医療機器総合機構（PMDA）からの医療安全情報は「PMDA医療安全情報」「緊急安全性情報」「安全性速報」「PMDAから医薬品適正使用のお願い」としてメールにより診療科・部門に提供している。また、関係機関からの医薬品に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼している。
 - ・ 医薬品に関するインシデント集計・分析結果により、専門委員会やワーキング等で医薬品に関するインシデント防止対策や講習会内容の検討を行っている。

(様式第 6)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	㊟・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 4 1 回
<p>・ 研修の主な内容：（H 2 6 年度）</p> <p>人工呼吸器安全管理講習会（基礎課程 3 回を 2 クール・認定課程 1 回） 非侵襲人工呼吸器研修 1 回 医療機器に関する研修「輸液・シリンジポンプ編」 2 回 共用血管用エコー講習会 2 回 人工心肺装置及び補助循環装置 2 回 血液浄化装置 4 回 除細動装置 2 回 閉鎖式保育器 4 回 診療用高エネルギー放射線発生装置 9 回 診療用放射線照射装置 6 回 新規導入機器研修：血液浄化装置（D B B 100 N S） 2 回</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 計画の策定 （㊟・無）</p> <p>・ 保守点検の主な内容：</p> <p>医療機器管理システムを使用し、使用している医療機器の種類毎に保守点検計画の策定、実施、及び、実施の確認をしている。</p> <p>【中央管理機器】 ME 機器管理センターで、日常点検・稼動後の点検、定期点検の実施 不具合発生時の現場調査と故障点検の実施。 故障時のメンテナンスとメーカーとの調整。</p> <p>【放射線部管理機器】 放射線診療従事者より、①始業点検、② 2 回/月以上の出力線量測定、③ 3 ヶ月及び 6 ヶ月毎に放射線及び幾何学的点検、④漏洩線量等の放射線管理に関する測定を実施している。 他に製造メーカーと保守契約を結び年間 3 回の定期メンテナンスを実施している。</p> <p>【診療科・部門管理機器】 医療機器管理システムを使用して、管理課で保守点検計画により機器のリストを作成し、機器の保守点検を実施。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 （㊟・無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療機器の情報管理体制として、医療安全性情報管理体制を整備。 それに基づき、日本医療機能評価機構からの医療安全情報は「医療安全情報」としてメールで診療科・部門に提供。 関係機関やメーカーからの医療機器に関する情報、新聞報道からの事故情報などは「緊急情報提供と点検のお願い」にて情報提供とともに現場での業務点検を依頼。 また、ME 機器管理センターからメールにて医療機器情報を現場へ提供。 医療機器を管理するための北海道大学病院の医療機器管理体制を明文化。 医療機器に関するインシデントの分析結果を基に e ラーニングシステムを構築した。</p>	

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	① 有 ・ 無
・ 評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構，平成26年1月	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	① 有 ・ 無
・ 情報発信の方法、内容等の概要 広報誌およびウェブサイトにて、本院の理念と目標、地域の中核としての役割、先進的な医療に関する情報提供などを行なっている。 また、市民公開講座を主催し、地域社会へ医療に関する最新情報の提供を行っている。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	① 有 ・ 無
・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 診療科時間の連携についてのルールが整備されており、他診療科への受診依頼、依頼先における検査結果等の患者情報が電子カルテを通して共有されている。患者の情報が不足している場合は補足説明を電話で直接行う等により緊密かつ緊急に連携できる体制を整えている。	